

ちくさん クラブ21

ニッポンの美味しいを共に創る

一生懸命 (長崎県/吉崎市農業協同組合肥育部会) 希少性の高い「吉崎牛」 こだわりの飼料で肥育	02
共創するチカラ (千葉県) 生産者とJAグループが一丸で守り、育む 千葉の銘柄豚「房総ポーク」	16
NEWS 第15回全農養豚セミナー	06
第39回全農酪農経営体験発表会	22
CASE STUDY (養鶏) 鶏伝染性気管支炎(IB)の対策	08
教えて!中研 (肉牛、乳牛、養豚、養鶏) 生産性向上のための技術紹介	10
連載 Dr.ジークのmyカルテ 和牛繁殖牛の代謝プロファイルテスト	14
全力結集	20
ZEN-NOH海外レポートVol.10	24
情報 JACCネット和牛枝肉共励会/子牛市場	26
マーケット情勢	28

養鶏生産者、関係者の皆さま

鳥インフルエンザを

国内養鶏場、関連施設に

持ち込まない 拡げない 持ち出さない

ための**基本対策**を**徹底**しましょう!2021年11月以降の発生状況
(12月20日時点)

おねがい

- ①高病原性鳥インフルエンザの発生を防止するためのチェックリストの再確認
- ②鶏舎周囲と農場境界への消石灰などの散布による農場へのウイルス侵入防止
- ③異常な鶏の早期発見、発見したら直ちに家畜保健衛生所へ連絡・通報

主な防疫対策

① 防鳥ネット、野生動物対策

- ①農場、家さん舎周囲の枝の剪定(せんてい)、除草を定期的に行う
- ②家さん舎周囲の整理整頓、家さん舎の補改修(すき間対策など)を行う
- ③家さん舎、飼料庫、堆肥舎など周囲に防鳥ネットを設置する(網目は2cm以下)(令和3年10月施行)
- ④バーコンベアーや除ふんベルトなど家さん舎開口部の常時閉鎖、使用時のみの開放を行う
- ⑤ネズミ対策としてトラップ設置、殺そ剤の散布を行う



② 衛生管理区域への病原体侵入防止

- ①衛生管理区域出入りの際の手指消毒、専用靴・専用衣服を使用する
衛生管理区域内外の靴・衣服が交差しないよう、動線管理を徹底する
- ②車両の消毒は衛生管理区域の出入り口付近で消毒ゲートや高圧洗浄機などを用いて消毒する
- ③衛生管理区域に車両を入れる者に対し、当該農場専用フロアマットの使用、その他の方法により、車内における交差汚染を防止するための措置を徹底させる



③ 衛生管理区域内における病原体による汚染拡大防止

- ①家さん舎ごとに手指消毒または専用手袋、専用靴の着用を徹底する
家さん舎外の靴が交差しないよう、動線管理を徹底する



④ 水の衛生対策

- ①池や沢の水はそのまま使用せず、塩素消毒を行って使用する
- ②井戸水も飲用に適さない場合は、塩素消毒を行う
- ③塩素消毒を実施する場合、定期的に塩素濃度を測定する

詳しい防疫対策についてはガイドブックもご覧ください



令和3年10月改正の飼養衛生管理基準のガイドブックを作成・発行しています。

漫画を盛り込んだとても分かりやすい内容となっておりますので、農場でぜひご利用ください。

(中央畜産会、農水省、JA全農等にて制作)



全農 JACCネット
JA全農が提供する畜産総合情報サイト

全農畜産総合情報サイト「JACCネット」では、家畜防疫に関するコンテンツを多数用意しています。ぜひご利用ください。

JACCネット

検索



(株)科学飼料研究所、全農畜産サービス(株)では、防疫に役立つ資材を取り扱っています。

JA全農グループ

希少性の高い「壱岐牛」 こだわりの飼料で肥育

長崎県の壱岐島で生まれ、育った黒毛和種の「壱岐牛」は、年間約900頭しか出荷されない希少性が高い牛だ。和牛のオリンピックと称され、5年に1度開かれる「全国和牛能力共進会」には多くの牛を出品し、優等賞を獲得するなど、全国的に高い評価を得ている。

「二支國配合飼料」とミネラル豊富な牧草で飼育
コクとキレのある脂質、やわらかな肉質を生み出す

「壱岐牛」はJ-A壱岐市のブランド和牛だ。壱岐市農業協同組合肥育部会の部会員が、「J-A北九州くみあい飼料(株)」で製造された「二支國配合飼料」を使って肥育し、日本食肉格付協会の枝肉格付で肉質等級五等級、四等級、三等級のもののみ名乗ることができる。

「壱岐牛」はビタミンやミネラルを豊富に含んだ「二支國配合飼料」や、島に吹く潮風によりミネラルをたっぷり含んだ牧草を食べて育つため、肉質がやわらかく、脂質の融点が低い。口の中に入れると豊かな甘みが上品に広がり、舌の上でとろけることから、全国の食通からも人気を集めている。

今回は、そんな「壱岐牛」を飼養する3農場で働く皆さんを紹介する。

こやま牧場



長崎県壱岐市郷ノ浦町半城本村触221
飼養頭数／190頭

山本畜産



長崎県壱岐市郷ノ浦町柳田触759
飼養頭数／215頭

野元牧場（本社）



長崎県壱岐市郷ノ浦町志原南触1374
飼養頭数／800頭

壱岐島



野元牧場の皆さま



こやま牧場の皆さま



山本畜産の皆さま

山本畜産

繁殖と肥育を親子で分担 牛の性格把握に注力し、ストレス低減

父親の代から牛を飼い、繁殖経営を営んでいたという山本満年さん（61）は「牛が大好きだった」ことから、16年前に就農した。当初は杵岐市農協に勤めながら経営していた。経営力向上を目指す中で、子牛を4〜5カ月肥育して売ると収益がより高まったことから、肥育に重点を移した。農協を47歳で退職すると畜産業に専念し、妻の由紀江さん（55）とともに飼養頭数を増やししながら、一貫経営を目指していた。

2021年11月時点で、牛舎3棟で肥育牛140頭、繁殖雌牛75頭の215頭を飼養する。年間の出荷頭数は約80頭。長崎県立農業大学校を卒業した娘の愛子さん（22）に繁殖を委ね、自らは肥育に専念する。2年前に「株式会社山本畜産」として法人化し、家族3人と、



餌の食いつきで健康状態を把握する由紀江さん



牛舎にいる時は牛の動向を常に観察する愛子さん

従業員とパートの2人が携わる。

肥育のこだわりは、牛にストレスを与えないことで、1区画に入れる牛は2頭。特徴的なのは牛同士の相性を見ながら、「同部屋」の牛を決めることだ。「力関係で、餌を食べられない牛がないようにする」狙いで、満年さんは牛を観察するため、一日のほとんどを牛舎で過ごし、個体の性格把握に努めている。また、胃腸の健康を保ち、食い込みが安定するように生菌剤を使う。「人に慣れた牛は、ストレスが少なく、餌もよく食べます。それがよい肉質につながっています」と説明する。

昨年11月に福岡で開かれた「第20回杵岐牛枝肉共励会」では、山本さんの出品牛がブランドチャンピオンに選ばれた。今年は第12回全国和牛能力共進会（鹿児島全共）に挑戦する。満年さんは「杵岐牛は島にとつて地域の活性化につながる大切な存在。これからも牛の品質と発育の向上を目指して日々努力していきます」と抱負を話した。

こやま牧場

出荷は26カ月齢の雌牛のみ 独自飼料を共同開発し、生産を安定化

肉質がきめ細かく、雄牛より脂が甘い雌牛のみを出荷するという、独自のスタイルで肥育する「こやま牧場」の小山久志さん（49）。長崎県立農業大学校を卒業したばかりの29年前、畜産の収入の大きさに魅力を感じ



JA北九州くみあい飼料の担当者と飼料の相談をする小山さん（左）



JA杵岐市の担当者と話す小山さん（左）

26カ月で出荷する。出荷頭数は毎月10頭、いずれも雌牛だ。

「26カ月を過ぎると肉のまわりに脂がつき始め、牛の体形や肉質が変化します。そのぎりぎりのところで出荷することで経験上、最も美味しい肉質の杵岐牛を提供できます」と説明する。

「杵岐牛」のブランド化に力を注いできた小山さんは、「これからも肉の品質、美味しさを追求していきます」と話し、更なる高みを目指している。

野元牧場

クラウド牛群管理で大規模経営を実現 耕畜連携を推進し、地域農業を振興

「野元牧場」は繁殖牛や肥育牛、肥育素牛など計800頭を飼養する。繁殖と肥育の一貫経営で、年間約100頭を出荷する島内最大規模の畜産農家だ。

1983年、野元勝博さん（61）の父親が繁殖牛10頭で経営をスタートさせた。当時の杵岐郡農協に勤めていた勝博さんが熊本での研修で関心を持った肥育を始めるようになり、2012年に株式会社野元牧場を立ち上げた。現在は勝博さんが会長となり、人工授精師の資格を持つ次男の久志さん（31）が代表として牧場をけん引する。

島内7カ所に牛舎や事務所などの拠点を擁し、社員は15人。800頭もの牛の健康状態などを把握するために欠かせないのが、「クラウド牛群管理システム」だ。



餌の量は牛ごとに慎重に見極める

行動履歴など牛の状態をリアルタイムで社員と共有している。システムはもともと、事故を減らす狙いで導入したが、予防接種や治療歴などのデータも集めることができる。データはスマートフォンやパソコンを通じて確認でき、社員間の経験の差を埋めて、安定的な高品質生産に役立っている。

また同社は農地所有適格法人として発足しており、杵岐市内の畑を借りて、イタリアンライグラスやソルゴーなど飼料作物を自ら栽培する。JA杵岐市アスパラガス部会にも所属し、牛糞堆肥を活用する循環型農業にも取り組む。耕畜連携によるJAと二人三脚の野菜振興や後継者育成などが高く評価され、同部会は2012年に第41回「日本農業賞」の大賞を受賞した。

久志さんは「夢は社員にもわかる畜産経営を実感してもらい、地域農業の魅力をもっとと高めていくことです」と力強く話した。

独自の取り組みで、成績を向上

10年ほど前まで農場内で豚サーコウイルス2型感染症(P CV2)や豚マイコプラズマ性肺炎(MPS)が蔓延し、なかなか断ち切ることができない状況が続きました。くみあい飼料の担当者からの勧めもあり、スリーセブン方式を導入。分娩率が前年と比較して1.3%向上した要因として、種付けストール上部に設置しているLEDライトを夕方から翌朝まで点灯していること、ストール前を雄豚が自由に歩けるようにしていること等が挙げられます。また、分娩舎では週1回ボディコンディションスコアをチェックし、最適なスコアでの離乳を心がけています。今後は、これまでの知識と経験を活かして新しいことにも挑戦していきたいです。

株式会社フカサワ
代表取締役 深澤 重史さん(秋田県)



飼養規模 母豚300頭 一貫経営

母豚は目標のボディコンディションスコアを目指し、給餌量の調整を個体ごとに細かく行っています。また、過去に受胎率が低下した時の対策として最も効果的だった通路の水洗いを現在も徹底して行っています。許容確認は担当者全員で行い、個人ごとのレベルアップを目指しています。「母豚や子豚への細かな管理に時間を割くこと」「衛生管理を怠らないこと」という意識を持って、できる限りのことを行っていることが好成績の維持につながっていると思います。今後も新たな知見を試していきたいです。

JAさが天山ファーム
場長 内川 浩一さん(佐賀県)



飼養規模 母豚920頭 一貫経営

種豚の性能を十分に発揮させることを目的に、廃用基準の策定による母豚の産歴構成の適正化を行いました。そのほかにも、母豚の育成期間を長めに設定し、しっかり骨格づくりをするなどして繁殖成績の安定化に取り組みました。また、月ごとの目標と成績を事務所の壁に掲示し、従業員が自農場の成績を把握、意識するようにしました。現在はコロナ禍で中止していますが、毎月検討会を行っているほか、外部とも連携して積極的に情報交換を行っています。こういった取り組みの積み重ねが現在の成績につながっていると思います。

有限会社阿賀北ファーム
代表取締役 齋藤 幸さん(新潟県)



飼養規模 母豚1,750頭 一貫経営および2サイト

初回種付けまでにブドウ糖を与えることで、初回および生涯の繁殖成績が向上しました。また、分娩前の母豚に繊維を給与していること、日中に分娩を集中させるなどして介助体制を整備したことが死産率の低減につながりました。母豚の泌乳能力向上と虚弱豚対策として、妊娠中期の給与管理体系の見直しを行ったほか、里子の徹底やMWFを活用して1頭でも多く確実に育てています。今後も引き続き、さまざまなことに取り組み、その成功要因を分析することでさらなる成績向上を目指します。

鹿児島県経済連高山大規模養豚実験農場
場長 下之門 和也さん(鹿児島県)



飼養規模 母豚700頭 一貫経営

ハイコープ種豚の能力を最大限に引き出す管理について

NEWS
11月19日

第15回全農養豚セミナー

2021年11月19日に「第15回全農養豚セミナー」が開催された。

前回に続いてオンラインでの開催となったが、特別講演や優良農場の紹介を通じて、

今回のテーマである「好成績を維持する際のポイント」について

貴重な知見を共有する機会となった。



JA全農畜産生産部 推進・商品開発課 三浦康治課長



JA全農畜産生産部 由井琢也部長

※Web PICS(くみあい養豚生産管理システム): JA全農が提供しているクラウド型養豚生産管理システム。導入、種付け、分娩、哺育、離乳、廃用、へい死、出荷等を入力する事で、母豚の繁殖成績や農場全体の成績を把握できる。

Web PICS[※]の集計概況や優良農場の取り組みなどを発表

今回で15回目となる本セミナーには、全国から約130名が参加。開会にあたり全農畜産生産部の由井琢也部長は「鳥インフルエンザ、豚熱(CSF)が全国的に広がっている。本セミナーが生産性向上、防疫の一助となれば」と挨拶した。

はじめに、2020年Web PICS集計結果(集

特別講演

「消毒の基礎と現場で効果的に使うポイント」

世界各地で、口蹄疫やアフリカ豚熱(ASF)、豚熱(CSF)が発生しており、日本でも、野生イノシシによる豚熱感染が2018年から継続的に報告されています。

こうした家畜伝染病の発生状況を受けて、2020年度に飼養衛生管理基準が改正されました。特に、交差汚染防止などの「消毒」について具体的な記載が加わりました。国内の鳥インフルエンザの発生状況や、豚熱のワクチン接種済みの農場で豚熱発生が確認されていることをふまえ、今年度更に改正されました。このような情勢の中、「消毒」の考え方・実践方法がより重要に

(株)科学飼料研究所
動薬部北九州事業所
清水 紘子所長補佐



計対象期間: 2020年1月~12月を報告した(本誌134号で掲載)。続いて、株式会社科学飼料研究所動薬部北九州事業所の清水紘子所長補佐が「消毒の基礎と現場で効果的に使うポイント」をテーマに講演。全国から選出された成績優良な4農場の事例紹介では、各農場の取り組みを動画で紹介し、質疑応答も活発に交わされた。

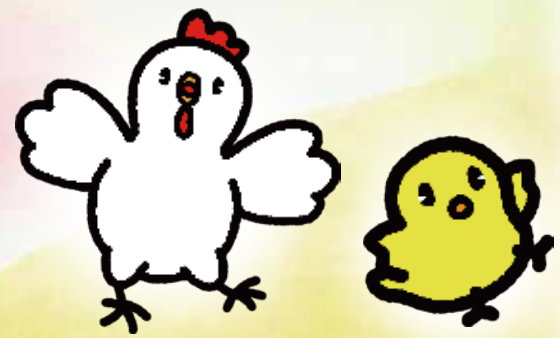
全農畜産生産部の三浦康治課長は閉会の挨拶で「産肉量の増加は生産者の皆さまの努力によるもの。来年はオンラインではなく、対面で実施したい」と述べた。



消毒は、成績向上の重要な手段です。農場の課題を把握し、適切な消毒薬を適切な方法で使用すれば、最終的には農場の収益増加につながることができま。農場の汚染レベルは、洗浄→乾燥→消毒→乾燥→石灰塗布→乾燥の順に下がります。そのため、消毒の効果を最大限に発揮するためには、徹底した洗浄を行うことが大切です。洗浄が不十分な場合、有機物が残り、消毒薬が浸透しません。洗いにくいところ、消毒しにくいところほど汚染されている可能性が高いので、重点的に洗浄、消毒を行ってください。

また、多くの病原体は乾燥に弱いため、空舎期間スケジュールを立てる際にも、乾燥の期間は減らさないようにしましょう。

日々の防疫対策として、手洗いや着替えは有効です。加えて、シャワーも非常に強力な防疫の手段です。外部訪問者の対策として、全身を覆うような感染症防護対策キットの活用もお勧めします。



鶏伝染性気管支炎(IB)の対策 ～新しい鶏用ワクチンの開発～

生産性低下の原因となる鶏伝染性気管支炎(以下、IB)の対策は、全国の養鶏場において重要な課題です。
JA全農家畜衛生研究所(以下、家衛研)は、近年の流行株(JP-Ⅲ型)に有効な弱毒生ワクチン『IB生「科飼研」JPⅢ』(以下、本製品)(写真1)を㈱科学飼料研究所と共同で開発し、同社から販売を始めました。



写真1. IB生「科飼研」JPⅢ

表1. IBの症状例

採卵鶏(育すう期)及びブロイラー	● 呼吸器症状(咳、クシャミ、ゴロゴロ音などの異常呼吸音)、元気消失、飼料摂取量の減少による発育不良 ● 他の呼吸器病(大腸菌症 等)との混合感染による症状の重篤化 ● 腎炎による死亡増加 ● (採卵鶏育すう期の場合)生殖器が傷害されて将来の産卵能力が喪失(無産鶏)
採卵鶏(成鶏期)	● 産卵率の低下や産卵停止 ● 異常卵(小型卵、奇形卵、ハウユニット低下等)の産出

※抗体に結合することができる抗原(ウイルス)の性質

【はじめに】
IBはコロナウイルス科のIBウイルスを原因とする鶏のウィルス病で、鶏の品種、性、日齢に関係なく発生します。全国の養鶏場で常在化しており、多様な症状(表1)を示す経済的損失が大きい疾病です。
対策には、飼養衛生管理の徹底だけでなく、ワクチン使用が不可欠です。しかし、※抗原性の異なるさまざまな流行株が存在するため、流行株の抗原性に合ったIBワクチンを選択しなければ、十分な有効性が期待できません。

【開発経緯】
家衛研と㈱科学飼料研究所は、2000年頃から全国的に発生が報告されるようになった、従来のIBウイルスとは抗原性が異なる『JPⅢ型』のIBウイルスをターゲットとし、効果を示す生ワクチンが国内の養鶏産業に必要と考え、本製品の開発に着手しました。家衛研では全国の養鶏場からさまざまな性状の流行株を収集して、優れた安全性と有効性を示すJPⅢ型の生ワクチン候補株を選抜し、本製品の開発に至りました。

【本製品の特長】

- ① ワクチン株の由来
本製品のワクチン株は、IBによる腎炎死亡鶏由来のJPⅢ型流行株を弱毒化して、安全にしたものです。
- ② 選べる投与方法
本製品の投与方法は飲水、点眼、散霧から選択可能です。
- ③ 優れた安全性
本製品の安全性を評価した動物試験の成績を紹介します。
一般的にIB生ワクチンは、鶏の呼吸器(主に気管)で増えることで鶏に免疫を付与します。本製品を飲水、点眼、散霧投与したところ、いずれの投与経路においてもワクチンの副反応は認められませんでした。ワクチン投与区と非投与区の投与3週間後の増

体率は同等でした(図1)。さらに、投与3週間後の臓器(気管・腎臓)からは生ワクチン株は分離されませんでした。
以上の成績は、本製品は鶏の増体に影響を与えず、免疫付与後は鶏の体内から生ワクチン株が速やかに消失することを示しており、本製品の優れた安全性が確認されました。

④ 優れた有効性
本製品の有効性を評価した動物試験の成績を紹介します。

本製品を飲水、点眼、散霧投与した後に、JPⅢ型の流行株(以下、攻撃株)で攻撃を行い、呼吸器症状(異常呼吸音)の評価と臓器(気管)からのウイルス分離を行いました。攻撃後、非投与区では明瞭な呼吸器症状が認められましたが、ワクチン投与

区ではいずれの投与経路でも呼吸器症状は認められませんでした(図2)。また、非投与区では、臓器から高い割合で攻撃株が分離されましたが、ワクチン投与区ではいずれの投与経路においても臓器から攻撃株は分離されませんでした(図3)。
以上の成績は、本製品が鶏に付与した免疫によって、鶏の体内で攻撃株の増殖を顕著に抑制したことを示しており、本製品の優れた有効性が確認されました。

【最後に】
ワクチンは有効なIB対策資材ですが、その性能を最大限に発揮するためには、農場において適切な飼養衛生管理を徹底することが重要です。具体例として、飼養管理面では、適切な鶏舎環境と良好な栄

図1. 安全性評価試験の成績(増体率)

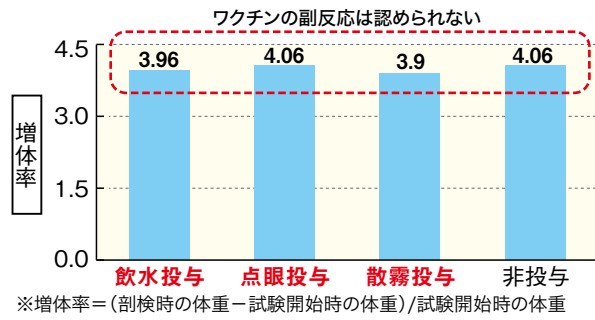


図2. 有効性評価試験の成績(異常呼吸音スコア)

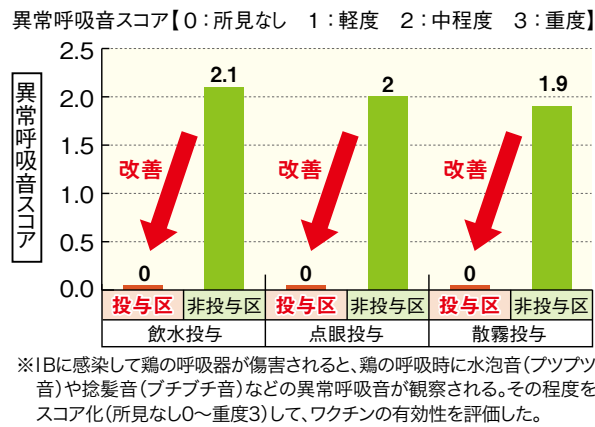


図3. 有効性評価試験の成績(攻撃後のウイルス分離率)

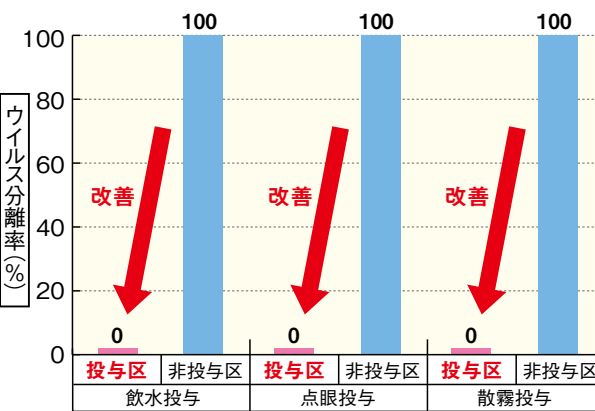
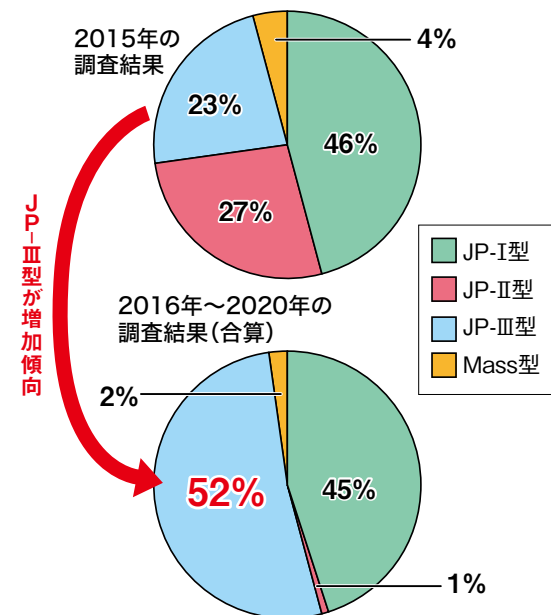


図4. IBウイルス流行株の検出状況調査



また、自農場に浸潤している流行株の抗原性を把握し、それに合ったIBワクチンを選択することが推奨されます。近年、家衛研で実施した全国の養鶏場の検査材料を用いた流行株調査(図4)では、JPⅢ型が増加傾向にあることが明らかになっており、JPⅢ型に対して高い有効性を示す本製品は、全国の養鶏農家の生産性向上に寄与すると期待しています。本製品は要指示医薬のため、使用に際しては農場の管理獣医師にご相談ください。お問い合わせは㈱科学飼料研究所 動薬部(T E L: 027-347-3223)まで。



乳用種育成牛における体重管理の重要性

乳牛の泌乳能力を最大限に活かすためには、経産牛の飼養管理はもちろん、育成期の適切な管理が重要となります。特に初産時の成績は育成牛の成長と密接にかかわっています。そこで今回は育成牛管理を体重の観点から紹介します。

笠間乳肉牛研究室

育成期と乳生産

育成期の飼養管理は、将来の乳生産量に影響します。初産牛は牛群の約3割を占めることから、牛群成績の向上には初産時から乳量が高める必要があります。そのためには育成期の初回種付け時や初産分娩時に適切な体重に成長させ、育成口スによる泌乳量低下を回避します。そうすることによって、初産時から高い乳生産が期待できます。

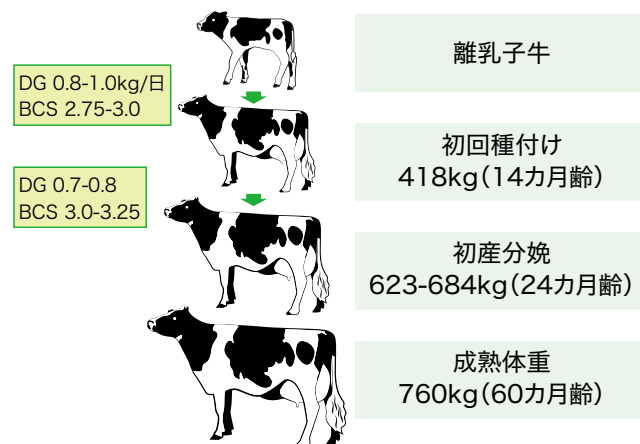
各ステージの目標体重

初産牛の乳生産を最大にする成長指標として、初回種付け時で成熟体重の55%、分娩時で成熟体重の82-90%が推奨されています(NRC, 2001)。日本ホルスタイン登録協会による最新の調査で平均成熟体重が760kgであることから、種付け時には418kg、分娩時には623~684kgが目標になります。例えば24カ月齢分娩を目標にする場合、14カ月齢時の体重は418kg以上が必要となります。離乳から種付けまではDG0.8~1.0kg/日を、受胎後はDG0.7~0.8kg/日程度を目指します(図1)。ただし、過肥による増体は乳腺組織の発達阻害や分娩後のトラブルにつながるため(Silva et al., 2002)、種付け前はBCS2.75~3.00、分娩前はBCS3.0~3.25を維持しながら増体を目指します。種付け時は月齢も確認しますが、適切な骨格・体重に成長しているかをより重視し、十分に成長しているのであれば、早期種付けにより育成期のコストを減らすことができます。

表1. かん幅からの体重推定早見表

かん幅(cm)	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
体重(kg)	205	220	236	252	268	283	299	315	363	376	388	401	463	478	493	508	523	538	553	568	583

図1. 24カ月齢で分娩を目指す際の目標体重

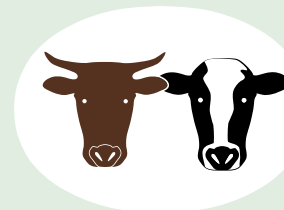


目標体重を達成するために

目標体重を達成するためには、飼養環境の整備のほか、牛の成長具合を把握し、適切な栄養レベルの飼料給与が必要となってきます。これらを実現するために必要な情報として「体重」が挙げられます。定期的な体重測定により、増体の確認や適切な飼料メニューの設計ができるようになります。しかし、現場での体重測定は資材面や労力面から難しいのが実情です。そこで比較的測定しやすい「かん幅」による体重推定法が考案されています(ヒポメーター®、写真)。当室では現在飼養している牛を基に、より精度の高い推定式を作成しました(表1)。胸囲から体重推定する推定尺もありますが、かん幅による推定は推定尺と同程度の精度で、後方から出っ張っている部分を挟むだけのため測定時間が短くて済みます。市販のノギスや体高計でも代用できるので、現状を確認し、その体重を基に育成期の飼養環境や飼料メニューなどを見直してみたいかがでしょうか。



写真. かん幅による体重推定



黒毛和種肥育経産牛における牛房あたり飼養頭数が生産性に及ぼす影響(後編)

※「中研」はJA全農飼料畜産中央研究所の略称です。

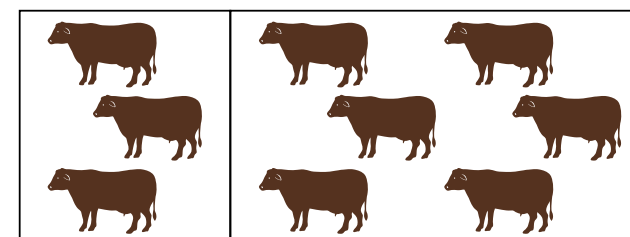
過剰なストレスは家畜の肉質に悪影響を及ぼします。前号では飼養密度に加え、牛房あたりの飼養頭数を制限することが生産性にどのような影響を及ぼすのかを取り上げました。今号は、牛房あたりの飼養頭数と肉質、特に肉色との関係性について紹介します。

笠間乳肉牛研究室

牛房あたりの飼養頭数と密度

図1で示したように、約147カ月齢(平均産次7.7産、平均体重488kg)の黒毛和種経産牛9頭を、40m²の牛房で6頭を肥育飼養する群(対照群)と、20m²の牛房で3頭を肥育飼養する群(頭数制限群)に分けて配置しました。飼料は、配合飼料(CP:12.5%、TDN:73.5%)とフェスクストローを用いました。廃用牛として判断してから3週間の馴致後、表1に示した給与体系に準じて6カ月間肥育後、出荷し、と畜しました。

図1. 牛房イメージ(40m²の牛房:幅8m×奥行5m、20m²の牛房:幅4m×奥行5m)



対照群:40m²の牛房で6頭飼養
頭数制限群:20m²の牛房で3頭飼養
全ての群の1頭あたり飼養面積:6.67m²

表1. 給与体系

肥育期間(月)	1				2				3-6			
(週)	1	2	3	4	1	2	3	4	1-4			
配合飼料(kg/頭/日)	6	7	8	9	10	11	12	13	飽食			
粗飼料(kg/頭/日)	4.5	4	3.5	3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5			

少頭数の飼養で肉色を改善する

図2は枝肉成績におけるBCS No.を示したものです。牛房あたり飼養頭数を3頭に制限することによって、BCS No.は小さくなりました。また、胸最長筋の色調を分析したところ(図3)、頭数制限群のL値(明度)は対照群に比べて高くなり、BCS No.の結果と一致

しました。更に、胸最長筋のビタミンE含量(図4A)と酸化ストレスの指標であるTBARS含量(図4B)を測定した結果、頭数制限群において、対照群より胸最長筋のビタミンE含量は高くなり、TBARS含量は低くなりました。

ビタミンEは抗酸化効果を有しています。牛房あたり飼養頭数を3頭に制限することによって、飼料中ビタミンEの利用性の向上や体内のビタミンE消費の抑制を介して、胸最長筋のビタミンE含量が高まり、TBARS含量が低下、すなわち肉の酸化が抑えられたことにより、肉色が保持されたと考えられます。

黒毛和種経産牛を肥育せずに出荷すると、肉色が濃くなることがあります。肥育をすると肉色は改善されることが知られていますが、牛房あたり飼養頭数を少なくすると、より肉色を改善することができます。

図2. 枝肉成績におけるBCS No.

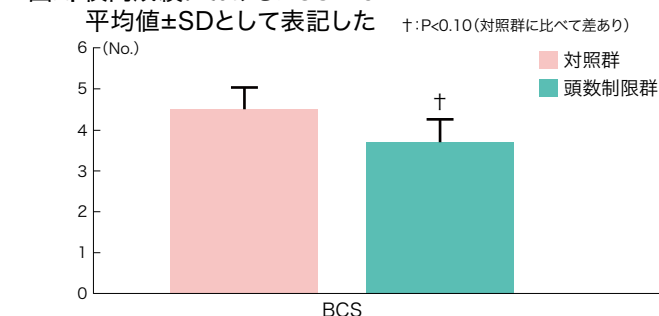


図3. 胸最長筋の色調

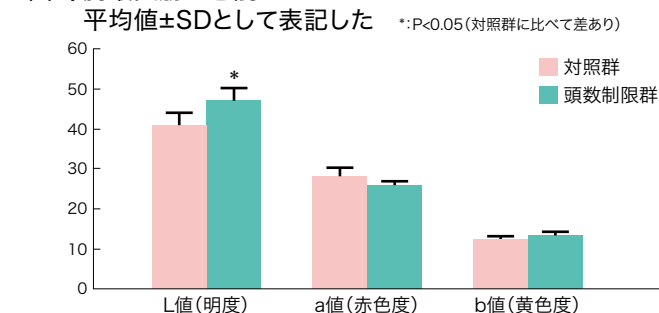
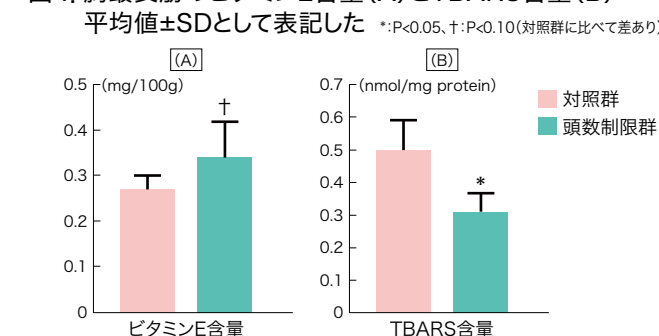
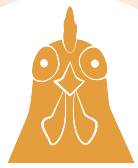


図4. 胸最長筋のビタミンE含量(A)とTBARS含量(B)





育すう期の発育の重要性について

育すう期における鶏群の発育状況や個体ごとの体重のバラつきは、季節や鶏舎構造、飼料栄養、光線管理等、さまざまな要因に左右され、その後の産卵成績にも影響を及ぼします。今回は育すう期における体重コントロールのポイントについて、データとあわせて紹介します。

養鶏研究室

育すう期の体重コントロール

鶏群の平均体重や個体ごとの体重のばらつきについては、育種会社が示す指標値を目安として、鶏群の平均体重が指標値を下回らないように管理します。体重が大きくなりすぎた場合には、成分の低い飼料への切り替えを早める調整をします。万一、体重が指標値を下回って推移した場合には、成分の高い飼料の給与期間を長くし、成分の低い飼料への切り替えを遅らせることによって調整します。

産み始めの体重とその後の産卵成績について

育すう期を終えた直後の18週齢時点の採卵鶏を、体重がかなり大きい鶏群(1区)、大きい鶏群(2区)、標準の鶏群(3区)、小さい鶏群(4区)の4つにグループ分けした後、同じ飼育環境下で同じ飼料を給与し、その後の産卵成績を調査しました。標準の鶏群(3区)が「コマーシャル鶏飼養管理ガイド ジュリア(第9版)」に記載の水準と同等となるように設定しました。

その結果、18～47週齢までの産卵成績を見ると、体重が大きい鶏群ほど卵の産み始めが早く、産卵率、

表1. 産卵成績(18～47週齢)

	18週齢 体重*	初産日齢 (日)	産卵率 (%)	平均卵重 (g/個)	産卵量 (g/日)	飼料摂取量 (g/日/羽)	飼料要求率
1区	特大	135.7	86.5	59.8	51.7	103.2	1.93
2区	大	138.8	85.2	58.7	50.0	99.9	2.00
3区	標準	142.4	84.4	57.7	48.7	94.1	1.87
4区	小	147.3	78.3	56.3	44.1	88.6	1.94

※1区：標準+241g/羽, 2区：+64g/羽, 4区：-202g/羽

表2. 産卵成績(47～61週齢)

	18週齢 体重*	産卵率 (%)	平均卵重 (g/個)	産卵量 (g/日)	飼料摂取量 (g/日/羽)	飼料要求率
1区	特大	87.5	66.7	58.4	117.2	2.01
2区	大	85.9	63.8	54.8	107.7	1.96
3区	標準	84.7	62.5	52.9	102.8	1.94
4区	小	82.4	60.2	49.6	97.5	1.97

※1区：標準+241g/羽, 2区：+64g/羽, 4区：-202g/羽

卵重ともに高まる傾向でした(表1)。体重が小さい4区は、産卵量が低く、特に他の区と比べて産卵率が大幅に低い結果となりました。以上のことから、体重が育種会社の指標値を大きく下回る鶏群は、その後の産卵成績が優れないことが示されました。

継続して、更に47～61週齢の産卵成績を追っていったところ、体重がかなり大きい鶏群(1区)では、飼料摂取量が他の区と比べて明らかに増加し、平均卵重も高まり、飼料要求率も悪化する傾向となりました(表2)。

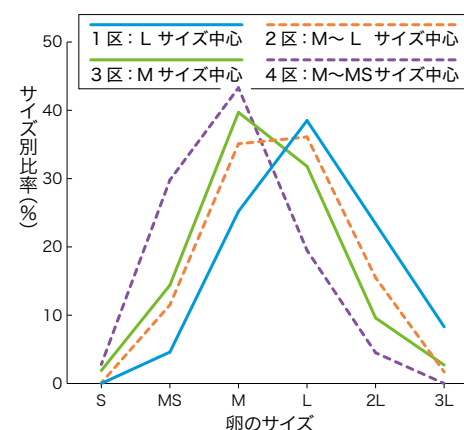
47～61週齢における卵のサイズ別の比率をグラフ化したところ(図1)、体重がかなり大きい鶏群(1区)では、Lサイズ付近の卵が最も多くなった一方で、小さい鶏群(4区)ではMS～Mサイズ付近が最も多くなりました。

農場経営に適した体重指標

比較的大玉の需要が高い昨今では、影響が少ないかもしれませんが、MS～Mサイズの卵価が最も高い状況下では、産卵初期の体重を大きくしすぎると、卵が大きくなりすぎて卵の単価が下がることや、農場において卵が割れやすくなることなどにより農場収益が低下することが懸念されます。

以上のことから、産卵後半における卵のサイズも考慮した場合、産卵初期の体重が小さすぎるだけでなく、大きすぎる場合にも農場の経営にとって好ましくないと考えられます。産み始めの体重は育種会社が示す体重指標と同等かそれよりやや大きいくらいに留めることがその後の産卵にとって重要になります。

図1. 47～61週齢における卵のサイズ別の比率



スムーズな離乳のための 哺乳豚管理ポイント

離乳は、幼齢の子豚にとって非常に大きな環境の変化です。この離乳時のストレス(以下、離乳ショック)を和らげることは、農場の成績向上につながります。今回は、離乳ショックを軽減するために必要な分娩舎における餌付け用人工乳と水の管理について紹介します。

養豚研究室

餌付け用人工乳の管理

分娩舎における子豚の栄養源は母乳のみとなります。母乳は子豚の発育に適した栄養が豊富で、子豚を感染症から守る抗体を含みます。そのため、分娩舎における母豚の栄養状態を適切に管理し、泌乳量の確保を行うことが重要とされています。しかし、分娩舎で母乳のみ摂取し、人工乳を食べることに慣れていない子豚は、離乳の際に飼料の形状が大きく変化することで摂食が一時的に止まり、発育に影響を与えることになります。

この離乳ショックを軽減するためには、分娩舎において哺乳子豚に餌付け用人工乳を給与することで、人工乳に慣れさせることが重要です。餌付け用人工乳に慣れさせるためには、分娩房の保温マットなどの上に餌付け用人工乳をまいたりします。保温マットは、ずれやすいため定期的に分娩舎の見回りをを行い、正しい位置に設置し直すことも必要です。保温マット

写真. ゴムマットにまいた餌付け用人工乳



は床面から上昇してくる冷たい空気を遮断する役割も担っているので、定位置にあるかその都度確認をしてください。

水の管理

もともと自然環境下では、水が豊富にある環境で生息していた豚にとって、多くの水を飲むことは健康維持に欠かせません。母乳を摂取している子豚にとっても水は重要な栄養素の1つであり、特に乳房炎などで母乳の量が低下している腹では、ウォーターカップなどの給水器具から水を飲むことは子豚の脱水を防ぐ上で重要となります。また、分娩舎で餌付け用人工乳を食べるためには母乳以外の給水が欠かせません。分娩舎で給水器の使い方を覚えることは離乳後の飲水行動につながり、離乳ショックを低減させることができます。

給水器から飲水を行う子豚は、早い個体で分娩初日から現れます。子豚に水を飲んでもらうためには、分娩前から給水器に水を張っておき、給水器に水があることを認識させることが重要です。更に、適切な水の流量を確保するために母豚用ピッカー同様、定期的な給水器の点検・清掃も心がけるようにしましょう。

表1. 1分間あたりの推奨流量と飲水量

	流量(ℓ/分)	飲水量(ℓ/日)
哺乳子豚	0.6	0.5～1.5
体重6～10kg	0.6	1.0～1.5
体重10～40kg	1.6	2.5～5.0
体重40kg以降	1.5	5.0～10.0
妊娠豚	2.0	10.0～15.0
授乳豚	2.0	15.0～25.0

(Lewis et al., 2001)

表2. 各ステージの給水器の推奨位置

	給水器	高さ
哺乳子豚	ウォーターカップ式	10cm
6～10kg	ウォーターカップ式	10cm
10～40kg	ニップル式	25～30cm
40kg以降	ニップル式	50～75cm
妊娠豚	ニップル式	70～90cm
授乳豚	ニップル式	70～90cm

(Swine Nutrition, 2001)



和牛繁殖牛の代謝プロファイルテスト

代謝プロファイルテストは、血液生化学検査やボディコンディションスコア等の調査から牛群の健康及び栄養状態を評価する手法で、主に乳牛で活用されてきました。近年、和牛繁殖農場の成績改善にも活用できる手法として注目されています。今回は、本会で実施した和牛繁殖牛の代謝プロファイルテストの活用事例についてご紹介します。

●MPTの効果と活用

「代謝プロファイルテスト (Metabolic Profile Test、以下MPT)」と聞いて、どのようなものかイメージが湧くでしょうか。酪農に従事する方なら一度は耳にしたことがあるかと思います。

乳用牛は、生乳生産のために多大なエネルギーが必要で、分娩後のエネルギー不足をきっかけに第四胃変位、ケトーシス、乳熱、乳房炎などの周産期病を招くと、生乳生産に大きな損失をもたらします。そのため、酪農場の飼養管理

改善の方法として、MPTを実施した経験がある方もいらっしゃるかと思います。

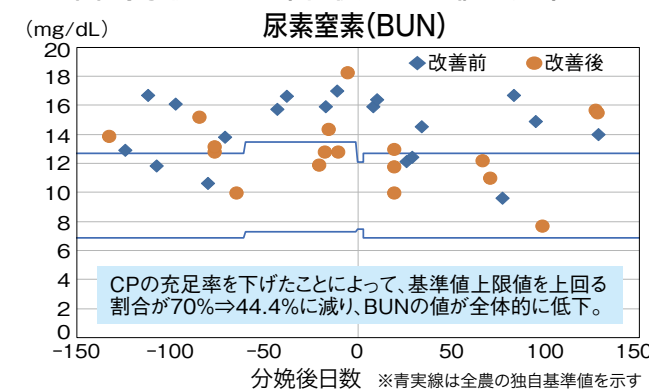
和牛繁殖牛も乳用牛と同様、種付けをして子を産ませます。しかし乳用牛と違い、母牛が明らかな周産期病になることはほとんどなく、和牛繁殖牛でMPTが活用される機会はあまりありませんでした。近年、飼養管理に課題がある和牛繁殖農場でのMPTが、繁殖成績の向上や子牛の疾病予防・事故率の低下に有用であることが分かってきました。JA全農では繁殖ステージごと(維持期、妊娠末期、授乳

期)に血液生化学検査の基準値(図2、4の青実線)を独自に作成し、和牛繁殖牛のMPTの取り組みを開始しましたので、2事例をご紹介します。

事例1 飼料の粗タンパク質(CP) 過剰給与の対応事例

タンパク質は重要な栄養素の1つですが、過剰摂取すると繁殖成績に悪影響を及ぼすことが知られています。牛は第一胃(ルーメン)という特殊な発酵タンクを持つ動物で、摂取したタンパク質の一部は、ルーメンの中の微生物により

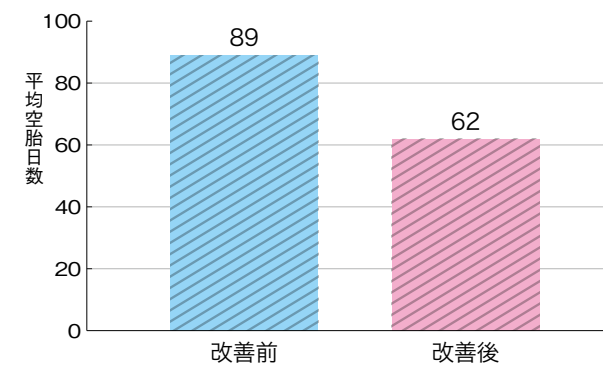
図2. 事例1の対策前後のBUN値の分布



アンモニア(NH₃)に変換されます。さらにNH₃はルーメン内微生物に取り込まれて下部消化管から消化・吸収されますが、利用されなかった過剰なNH₃はルーメン壁から吸収され血液中に入ります。血液中のNH₃は肝臓で代謝されると尿素窒素(BUN)という形に変換されるので、血液生化学検査ではBUNを見ることでルーメンから吸収されたNH₃が過剰かどうかを評価します。また、アルブミン(Alb)はタンパク質の充足を示す指標で、腸管から吸収されるタンパク質が少ないと低値になります。血液検査では、この2項目がタンパク質代謝に関係しています。

本事例では育成用配合飼料を和牛繁殖牛に多給しており、給与メニューを確認したところ、CPの充足率が高く(図1)、タンパク質の過剰が疑われました。実際に血液生化学検査を実施するとBUNが高く、CPの過剰摂取が起こっていると判断しました。この結果を受けて給与メニューを変更し(図1)、再度MPTを実施したところ、Albを低下させることなくBUNを低値にコントロールすることができました(図2)。また、平均空胎日数が89日から62日と短縮し、繁殖成績も向上しました(図3)。

図3. 事例1の対策前後の繁殖成績の改善効果



事例2 ビタミンA(VA)不足が 疑われた事例

VAは、視覚・繁殖・免疫の維持、抗酸化作用、上皮組織の保持などさまざまな役割を担うビタミンです。和牛繁殖牛では肥育牛のようにVAを制限することはありませんが、測定してみると実はVAが不足していたという事例もあります。

本事例は繁殖成績改善の相談を受けた和牛繁殖農家でMPTを実施しました。エネルギー不足は認められず、タンパク質の給与量も問題ないと考えられましたが、VAが分娩後に低値で、維持期でも低い状態が続いていることが分かりました。VAの給与量を聞き取ったところ、給与飼料とは別に、1カ月ごとに20万単位を給与していましたが、MPTの結果を受けて1カ月ごとの給与量を30万単位に

増やし、更に授乳中は10日ごとに30万単位の給与を始めました。その結果、VAの値は分娩後で高値となり、ほぼ基準範囲に収まるようになりました(図4)。また、繁殖成績もその後格段に改善し(表1)、現在も良好な成績を維持しています。

●MPTを農場の課題発見の機会に

今回紹介した2事例では、タンパク質やVAに課題が見つかりましたが、MPTでは血液検査、牛の状態、飼料設計などを総合的に分析して、エネルギー代謝、脂質代謝、肝障害、ミネラル代謝を評価します。農場の管理方法の調査の過程で、飼養管理方法に課題が見つかるケースもあります。もし繁殖成績を向上させたい方がいらっしゃれば、管轄のJA・経済連・くみあい飼料・県本部にご相談ください。

図1. 変更前後の給与メニューと変更のポイント：①受胎前後でメニューを分けた
②飼料給与量を変更し、CPの充足率を下げた

変更前				変更後			
繁殖ステージ	維持期	妊娠末期	泌乳期	繁殖ステージ	維持期(受胎前)	維持期(受胎後)	妊娠末期
体重(kg)	500	500	500	体重(kg)	500	500	500
乳量			4.0	乳量			4.0
飼料給与量(kg)	配合飼料	2.0	4.0	飼料給与量(kg)	配合飼料	1.5	2.0
	フェスクストロー	5.0	5.0		フェスクストロー	5.3	5.3
	ヘイキューブ	2.0	2.0		ヘイキューブ	1.5	2.0
充足率(%)	DM	123.0	129.0	充足率(%)	DM	113	110
	CP	181.0	181.0		CP	151	130
	TDN	147	151		TDN	134	121

図4. 事例2の対策前後のVA値の分布

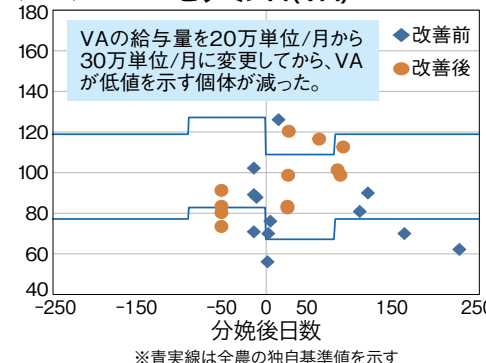


表1. 事例2のVA強化後の繁殖成績の変化

項目	改善前	改善後
平均分娩間隔	414日	405日
年間分娩頭数	92頭	96頭
受胎率	47.7%	51.4%

生産者とJAグループが一丸で守り、育む 千葉の銘柄豚「房総ポーク」

全国でも有数の豚肉出荷量を誇る千葉県。20を超える銘柄豚がひしめく千葉県の中でも、「房総ポーク」は着実にファンを増やし続けている。JAグループちばは、そのブランドの立ち上げから生産者に寄り添ってブランド化に取り組み、首都圏でのPR強化を図る。良質な肉質にこだわる肥育農家、ブランド力向上に奮闘するJAグループちばの取り組みを紹介する。

共創する
チカラ

肉質への追求が生んだ 旨味の余韻が続く豚肉

銘柄豚「房総ポーク」は、販路の開拓に苦戦していた千葉県の中小規模の農家が集って、大規模生産者と同等の頭数を確保し、有利販売につなげようと、2004年に立ち上げた。ブランド化するにあたり、最もこだわったのが品質の統一だった。LWDまたはWLDの3元交雑種を原則とし、現在は更なる品質安定のため千葉県畜産総合研究センターで造成された「ボウソウル

4」を基礎豚に使用している。また、肉の味や色が決まるとされる出荷前の約60日間、海藻粉末やビタミンEを配合した専用飼料を与えている。これにより、豚肉特有の臭みが少なく、すっきりとした味わいと旨味の余韻が続く「房総ポーク」を作り出した。

販売先は、県内を中心に茨城県や東京都の飲食店などで、JA全農ちばが年間2万4000頭を出荷する。畜産部畜産酪農課の千正理方副審査役は「房総ポーク」を指名で購入されるお客様が着実に増えていっていると感じていま

す」と手応えを話す。

一方で、コロナ下の販路拡大に課題も感じている。株式会社社味香戦略研究所で行った食味検査では、一般的な豚肉と比較して、スッキリとした旨味が非常に高いという検査結果が報告されているが、コロナ下で試食販売ができない状況が続いているからだ。「房総ポーク」の独創的な味わいとやわらかい肉質は、食べて知ってもらうのが一番です。少しでも消費者に直接食べってもらう機会を作りたいです」と千正副審査役は局面的打開を懸命に模索し

ている。

2021年10月には、千葉県内で人口の多い柏市の柏高島屋ステーションモールと柏高島屋との全面的なタイアップにより、館内のレストランで「房総ポーク」を使用した期間限定メニューを販売した。テレビ等のメディアが開催するプレゼントキャンペーンなどに賞品として提供するなど、機会の創出にも余念がない。今後、県内での更なる知名度向上のため、SNSやメディアでの露出を増やすなどPRを強化していく計画だ。

生産者の思いとともに 販売するのが使命

千葉県印西市にある、JA西印旛とれたて産直館印西店は2010年にリニューアルオープンし、ガラス張りの開放感溢れる店舗に生まれ変わった。2021年7月には同店内に全農のお肉工房がオープン、対面による量り売りで千葉県産の精肉を取り扱っている。

JA全農ちば畜産部畜産酪農課の高橋弘邦調査役は「近隣の競合店は効率を重視し、カット工場で加工した肉をパック詰めにして各店舗に配送するのが主流です。だからこそ、全農は、必



1



2



3

【販売店】

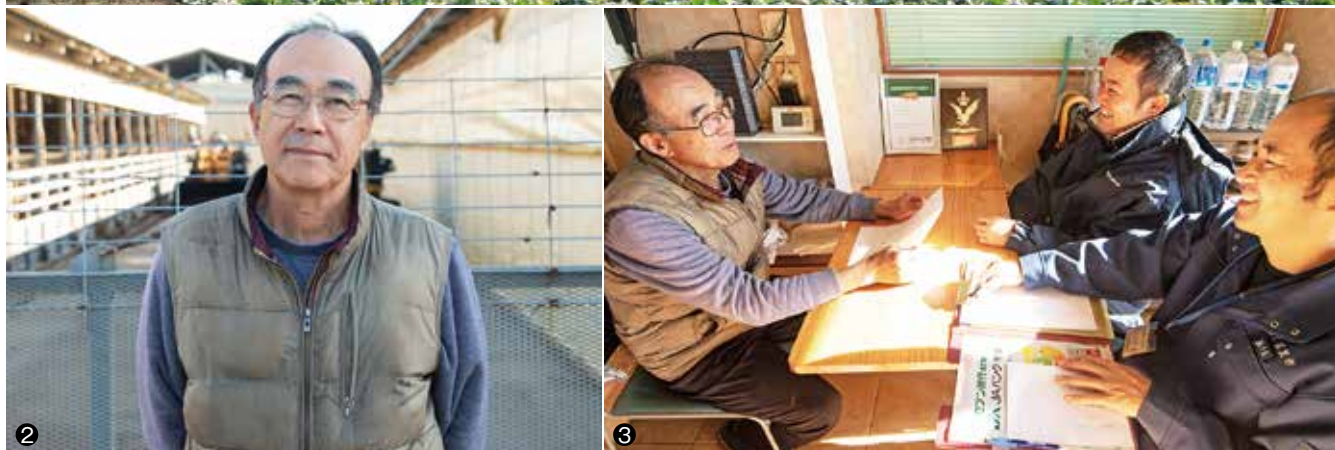
JA西印旛とれたて産直館印西店

千葉県印西市西の原 4-3
TEL. 0476-48-2200
営業時間 / 10:00 ~ 17:00
定休日 / 毎週月曜日、年末年始



4

- ①「房総ポーク」を扱う全農のお肉工房
- ②開放感溢れる、とれたて産直館印西店
- ③JA全農ちば畜産部畜産酪農課の千正理方副審査役(左)と高橋弘邦調査役(中央)、株式会社SCミートの馬場勝信店長(右)
- ④「房総ポーク」のブランドマーク



【生産者(取材・撮影協力)】 塩澤英一さん
千葉県富里市十倉

- ①専用飼料を納入する様子
- ②房総ポーク販売促進協議会の会長を務める 塩澤英一さん
- ③情報交換を密に行い、すぐに対策を講じる
- ④「房総ポーク」の専用飼料
- ⑤塩澤さん(中央)とスリランカから来日したスタッフのティリーナさん(左)とサチラさん(右)
- ⑥塩澤農場の豚舎内
- ⑦JA富里市営農部販売課の五十嵐護さん
- ⑧JA東日本くみあい飼料株式会社東関東支店の井上慶太主査



要な人が必要な分だけ買える“対面の量り売り販売を選択しました”と話す。消費者が適量を購入できる対面販売は、消費者の利便性を高めるだけではなく、販売時に直接コミュニケーションをとれることが大きい。

高橋調査役は「対面販売のときに生産者の思いを消費者にお伝えするようにしています。生産費がどんどん高くなる中で、それを安く売って大量にさばくのは私たちの使命ではありません」と熱く語る。そうした熱意が伝わり、近隣の量販店で販売する豚肉と比較して割高な「房総ポーク」に、半年たらずで固定客がつくようになった。

とれたて産直館印西店のお肉工房の店長を務める、株式会社SCミートの馬場勝信さんは「『房総ポーク』はなんといっても脂が美味しい。脂の美味しい肉が、本当の美味しい肉。その自信があるから、脂身も見せるように販売しています」と話す。

開店当初から、馬場店長は消費者の反応を見ながら試行錯誤を繰り返してきた。その1つが3cm超の厚切り肉だ。競合店との差別化を図るためにトライしてみたところ、予想を超える反響を呼び、1日に約10kg売れるほどのヒット

ト商品となった。

また、馬場店長は、SNSなどに上げられている動画で若者の厚切り肉の楽しみ方を研究していた。その時に見つけたのが「ダイヤモンドカット」だ。肉の背面から縦方向に、表面からは斜め方向に切り込みを入れると、肉の切れ目が美しいひし形に見えることから、パーベキューなどで「映える」と人気となっていた。厚切りの肉にも火が通りやすく、やわらかく焼き上げることができるため、肉本来の旨味を逃がさないという特色もある。「房総ポーク」とカットの相性の良さがあいまって、厚切り肉の人気を後押しした。

馬場店長は「この厚切り肉を7枚も買っていくお客様がいます。最近では、わざわざ東京から足を延ばして買いに来てくださる方もいます」と手応えを話す。この厚切り肉を目当てに遠方から買い物客が来るのは、スタッフにも良い刺激となっている。

厳しい状況を チームで乗り越える

富里市で塩澤農場を営む塩澤英一さん(66)。現在の飼養頭数は、1400頭。繁殖から肥育まで一貫経営で「房

総ポーク」を生産している。

2004年のブランド発足以降、塩澤さんは房総ポーク販売促進協議会の会長として、千葉県北東部から九十九里沿岸地域に点在する生産者を取りまとめた。発足当初、49農場あった会員戸数も現在は17農場にまで減少。「房総ポーク」は県内外からも評価が高いのものの、18年という年月の中で自立経営を望む生産者や高齢化による廃業で離脱する会員が増えてきた。特に後継者問題はブランドの維持のためにも大きな課題ととらえ、行政やJAグループと協力して取り組んでいる。

塩澤さんは「会員数が減ると飼料の仕入れ量が減り、生産コストを下げるのが難しくなります。それでも『房総ポーク』の専用飼料は、一定レベルの飼料をブレンドするなど従来からコストを抑える工夫に努めています」と話す。

現在、「房総ポーク」ではJA東日本くみあい飼料から仕入れたトウモロコシ、飼料用米、サツマイモ、キャッサバなどに海藻粉末とビタミンEを配合した専用飼料を使っている。日頃からJA東日本くみあい飼料の井上慶太主査と連絡を取り、価格高騰の兆しが見えた段階で「房総ポーク」の肉質に

影響を与えない配合に変更する提案を受けている。だからこそ、「飼料価格高騰の折、その影響を抑えられている」と井上主査に対する塩澤さんの信頼は厚い。

専用飼料によって肥育された塩澤農場の豚の平均枝肉重量は77〜78kg。JA全農ミートフーズを経由して、年間2800頭ほど出荷し、JA西印旛とれたて産直館やJA富里市産直センター、JAきみつ味楽園さだもと店、県内のスーパーなどで販売される。「巣ごもり需要の影響で豚肉は全般的に消費が増えました。ただ、外食産業が緊急事態宣言で休業していたため、内臓関係の売れ行きは不振で買取価格が下落しました」と塩澤さん。そうした状況の中でも、「房総ポーク」は個人の固定客がつかない多様な販路を確保していたため、コロナ禍による打撃は比較的小さかったという。

塩澤さんは「飼料や燃料価格の高騰など厳しい状況が続いていますが、美味しいものには人を和ませる力があります。これからも、食べた方に『美味しい!』と喜んでいただけるよう、美味しい豚肉を作り続けていきたいと思っています」と笑顔で話す。

全力結集

地域の生産性向上の取り組み

JA全農グループでは、地域全体の生産性向上を目標に、各地で特色ある事業を展開しています。
今回は、北九州と西日本地域の取り組みを紹介します。



写真1. 安藤コンサル(右から2人目)とともに「バーンミーティング」の様子



写真2. 積極的に意見を述べ合う参加者

JA西日本くみあい飼料株式会社

生産性向上のために コンサルらが農場巡回

JA西日本くみあい飼料株式会社は、酪農家の生産性向上のため、関係団体と協力した取り組みを継続して行っており、その中の1つを紹介します。JA京都酪農部会には40戸の酪農家が所属しています。より高いレベルでの生産指導や生産者同士の情報交

日頃からデータを共有し 生産農家を的確にフォロー

安藤コンサルとは日頃から牛群検定データやバルク乳成分検査結果を共有しており、この情報を基に、生産者のフォローをしていたでいます。JA西日本くみあい飼料は、生産者が使用している牧草・自給飼料の分析や、生

換、他生産者との目合わせ等を目的として、JA京都酪農部会が主催となり、牛舎内で実際に牛を見ながら飼養管理について検討する「バーンミーティング」や「農場指導巡回」を年1回行っています。

この取り組みは生産者の要望から始まり、今年で14年目になります。北海道で酪農コンサルティンクをされている安藤道雄コンサルタントにお越しいただき、生産者JA、家畜保健衛生所、酪農ヘルパー、JA西日本くみあい飼料が一緒になって各生産者の農場を巡回します。1戸あたりの時間はおよそ1時間半、3日間かけて7戸程度の生産者を訪問します。

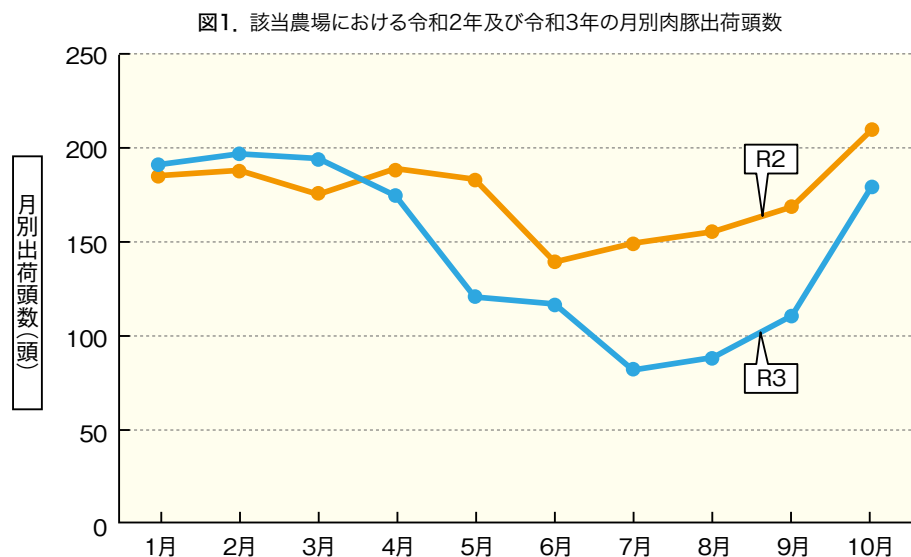
産者の現状を定期的に安藤コンサルに報告するとともに、生産者に飼料を提案する際は、事前に相談し、提案内容についてアドバイスをいただいています。巡回では、飼養管理のアドバイスをはじめ、飼料情勢、ストールサイズや換気扇の設置場所等の牛舎構造について議論します。今年度の巡回では、「冬の場の栄養管理」、「乾乳期でのケアの仕方」等について重点的に意見交換しました。そのほか、粗飼料不足の情勢から、稲発酵粗飼料(WCS)に関する話題も出ました。巡回で訪れた農場を管理している生産者はもちろん、同行している関係者からも積極的な意見が出ます。当事者だけではなく、他の生産者も共通の問題意識を持つことで、地域全体のレベルを底上げする取り組みになっています。

情勢が不安定な時期だからこそ、関係者が一体感を持って共通の課題に取り組む重要性が増しています。JA西日本くみあい飼料は、継続してこの取り組みをサポートしていきたいと考えています。

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社

農場衛生検査を活用した 生産性向上について

ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社は、養豚場の生産性向上を支援す



るため、さまざまな取り組みを行っています。特に力を入れているのが、全農家畜衛生研究所クリニックセンター九州分室及び、JA等関係機関と連携した農場衛生検査の普及推進です。

当社管内の養豚場で、離乳舎での事故率が増加したケースでは、子豚の増体が悪く、背骨が浮き出る個体がありました。ほかにも、被毛が粗く、呼吸器疾患の症状などが見られました。農場では逆性石鹼を用いた消毒を積極的に行いましたが効果は薄く、子豚事故の原因が分からないまま肉豚出荷頭数が減少していました。

相談を受け、当社からは農場に衛生検査の実施を提案しました。衛生検査は獣医師の協力のもと採血・採糞・鼻汁採取等を行い、発生している疾病を特定するためのものです。検査結果から、養豚場でサーコウイルスが蔓延しているということが判明

しました。農場では定期的にワクチンを接種していたものの、接種時期が遅いために感染が拡大してしま

検査結果を基にした対応で 事故率減少に導く

農場は検査結果を受けてワクチンの早期接種を実施。また、疾病対策として使用していた逆性石鹼はサーコウイルスには効果がなかったため、消毒薬も変更しました。衛生検査を実施して適切な疾病対策をとった結果、子豚事故率は減少しました。肉豚在庫数も増加し、前年実績を下回っていた月別出荷頭数が現在では大きく回復しています(図1)。

今回のような事故原因を探るための衛生検査以外に、農場衛生プログラムの見直しを目的とした検査も推進しています。管内でも何年も同じ衛生プログラムをしており、生産性が低下している農場が少なくありません。管内養豚農家の生産性向上のため、関係機関と連携した支援に引き続き取り組んでいきます。

26%、1000万円以上の所得を確保していることは驚異的」と高い評価を得て最優秀賞受賞となった。

松本さんは「家業の酪農を継ぐことに決めて35年。叱咤激励してくれた父と母のおかげでここまで来れた。いろいろな人からアドバイスをいただき、やってきたことが実を結んで感無量と涙を浮かべて喜んだ。

時代に沿った特色ある経営

最優秀賞のほか優秀賞には、牛舎施設の創意工夫やコントラクターなどの活用により省力化、効率化に努めて余暇を創出、また、自農場のOPU・IVF施設を地域の酪農家に提供し、地域酪農に貢献している清水牧場の清水繁勝さん、文子さん（岩手県）、消費者との積極的な交流や乳製品の製造直販などで地域内外に多くのファンを獲得する石岡鈴木牧場の鈴木昇さん（茨城県）、牧場を第三者継承しクロスブリーディング（異種交配）に取り組む萱森牧場の萱森健太さん（福井県）、敷料におがくずを極力使わず乳房炎の発生を極めて少なくしている高橋牧場の高橋悠さん、彩希さん（高知県）、働く人と環境にやさしい酪農を目指し、たい肥生産や働きやすい職場づくりなどを進める藤野牧場の藤野和有基さん（福岡県）を選定。特別賞として、清水さん夫婦に「先進技術普及地域貢献賞」、藤野さんに「人と牛にやさしい経営者賞」が贈られた。

小林信一審査委員長は「酪農所得や技術水準の高さだけでなく、先進性や普及性、地域への貢献、ワークライフバランスなども重視した」として、収益や技術だけでなくとらわれない多様な経営の重要性を提唱した。



審査委員長小林信一氏／静岡県立農林環境専門職大学短期大学部教授



JA全農の齊藤良樹常務理事



第39回全農酪農経営体験発表会の受賞者と審査委員



藤野牧場 藤野和有基さん
「『牛・人・街』にやさしい酪農～理想の酪農経営に向かって走り続け～」

萱森牧場 萱森健太さん
「新規就農で受け継いだ酪農経営と地域の絆」

石岡鈴木牧場 鈴木昇さん
「地域の高感度な消費者と共に歩む酪農」



高橋牧場 高橋悠さん、彩希さん
「乳房炎ゼロへの飽くなき探求心 夫婦二人三脚で切り開く地域と酪農の明るい未来」

清水牧場 清水繁勝さん、文子さん
「余暇を楽しむ“自然体”酪農～恵まれた環境の中で～」



最優秀賞 松本牧場 松本陽一さん、聡美さん
「埼玉県狭山市『松本牧場』における総合的評価 飼料自給率向上が及ぼす影響 ～大学時代の研究を实践して15年～」

第39回全農酪農経営体験発表会



全国の経営に優れた酪農家が特色ある経営技術を発表

農協・県連・県本部が推薦する優秀な酪農経営体験者を表彰し、その経営技術を広く関係者に紹介する「全農酪農経営体験発表会」。全国から選出された6戸の酪農家が登壇し、特色ある経営を発表した。

JA全農は2021年11月26日、第39回全農酪農経営体験発表会を東京・大手町の日経ホールで開催した。昨年はコロナ禍により中止となったため2年ぶりの開催で、感染予防対策として会場での発表とオンライン発表による「ハイブリッド形式」で実施した。

開会にあたりJA全農の齊藤良樹常務理事は、生乳生産量が増加している一方で需要が減少し、特に業務需要の減退から乳製品の在庫が積み上がっていることに触れ、「業界が丸となって課題解決に取り組んでいる。JAタウンの酪市酪座による消費拡大や乳製品の販売促進などを強化している」と業界を挙げた理解と協力を呼びかけた。

最優秀賞に松本牧場（埼玉県） 自給飼料の追求で乳量・乳質向上

最優秀賞に輝いたのは埼玉県狭山市の松本牧場の松本陽一さん、聡美さん。飼料の自給率向上を通じて乳質改善と乳量増加を実現させた取り組みを報告した。搾乳牛の粗飼料自給率は90%以上で、JAの土壤診断や県機関の飼料分析を活用して飼料の品質改善を追求。その結果、就農から15年で1頭あたり年間平均乳量が2000kg近く増加し、乳飼料比31%を達成したという。「少ない餌で効率的に搾れる牛を選抜して1頭あたり収益性をアップし、経産牛5産5万kgの経営に努めたい」と抱負を述べた。

審査員からは「飼料生産基盤の安定化と拡大で良質飼料を確保し、消臭対策なども含めて都市近郊酪農のモデルとなる経営を実践。30頭規模で所得率

全農学生「酪農の夢」コンクール SDGsの視点で未来を展望

同日は第15回全農学生「酪農の夢」コンクールも開催され、全国の学生が応募した作文128作品から選ばれた最優秀賞、優秀賞の計4作品が発表された。

最優秀賞には北海道岩見沢農業高校の茂木千波さんの「乳で広がる無限の可能性」を選定した。茂木さんは、乳製品を製造する過程で生じるホエーが未利用のまま廃棄される現状に着目。日本獣医生命科学大学で研究されている、キャラメルのような風味の「プラウンチーズ」の製造による酪農の収益向上と食品ロスの削減を提唱した。このほか優秀賞に福島県農業総合センター農業短期大学の菅野泰夢さん、栃木県農業大学の糸川夏海さん、北海道帯広農業高校の砂川律さんを選んだ。

表彰式の後には、発表を終えた酪農家と学生による座談会を開催した。学生らは、理想の酪農や経営の現実といった関心事について、発表会で受賞した「大先輩」に質問するなど活発な意見交換が行われた。



前列左から菅野泰夢さん、糸川夏海さん、茂木千波さん、砂川律さん、後列は指導にあたった先生方

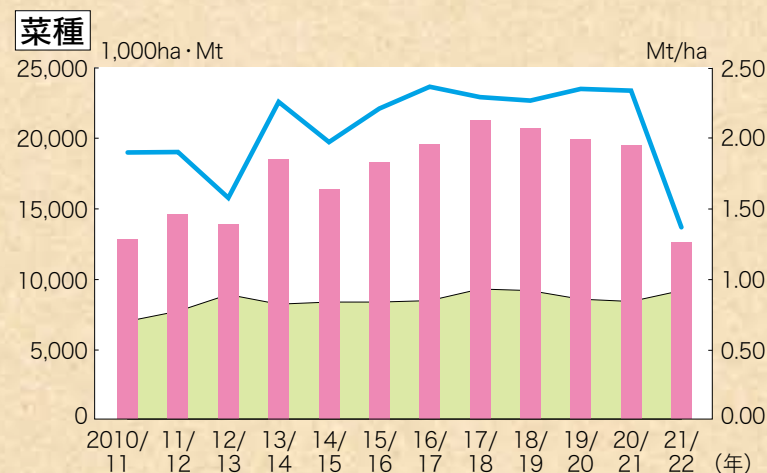
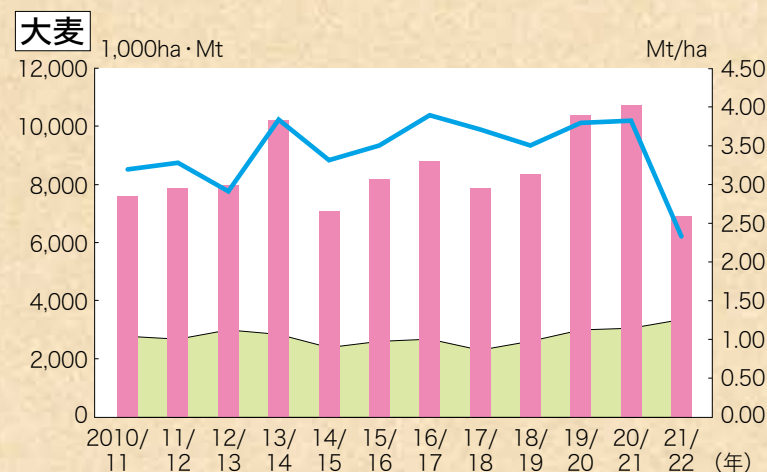
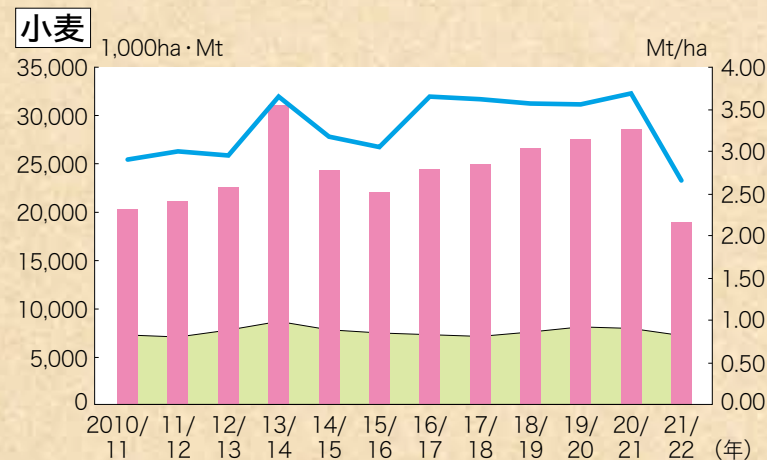


酪農経営者に質問する学生たち

■カナダ主要品目

作付面積(1,000ha)・生産量(1,000Mt)・単収(Mt/ha)

■ 作付面積 ■ 生産量 — 単収



輸出船積み施設(フレザー・グレイン・ターミナル) バンクーバー近郊に所有する輸出船積み施設



月下旬から10月末頃にかけて収穫します。しかし、2021年は6月中旬以降、降雨に恵まれず高温乾燥の日々が続き、7月には40℃を超える日もありました。通常は夜間になると急速に温度が下がりますが、昨年は夜間の気温が30℃以上となる日が複数日あり、日較差も小さいことから、全ての作物で高温乾燥のストレスを受けてしまう状況となりました。

現地では、春の作付けの準備が進められており、カナダの穀物生産者は皆、今年は豊作になることを願っています。

また、カナダ有数の穀物業者であるパリッシュ・アンド・ハインベック社と合併で、輸出船積み施設フレザー・グレイン・ターミナルをバンクーバー近郊に設立しました。同施設は、2020年12月より貨車から本船へ直接船積みする手法で船積みを開始。カナダの内陸集荷施設から輸出港までのサプライ

チェーンを完成させました。今季から保管ビンを含む施設の本格稼働を開始し、より円滑な船積みが可能となりました。

カナダ内陸部の冬は、氷点下40℃以下になることもある過酷な環境ですが、内陸施設の安定的な稼働を行い、フレザー・グレイン・ターミナルでは夜間の船積みに対応するなどカナダ産穀物の安定供給に務めています。また、カナダでも新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、穀物事業は事業継続が求められる事業に位置づけられており、内陸集荷施設、輸出船積み施設の両方で、部外者の来訪を制限するなどの感染防止対策を徹底しています。



19年ぶりの大減産 小麦粉・植物油の値上げを懸念

カナダでは、小麦、大麦、菜種などの作物は例年4月下旬から6月上旬頃にかけて作付けを行い、8



大量集荷・大量輸送の実現で カナダ産穀物を安定供給

グレインズコネクト・カナダ・オペレーションズ株式会社(本社・カルガリー市)は、2015年12月に全農グループと東豪州に基盤を持つグレインコープ社の合併によって設立されました。カナダ穀倉地帯と輸出港をつなぐサプライチェーンの構築により、カナダ産穀物の安定的な調達・供給を目指しています。



内陸集荷施設・輸出施設の充実に カナダ産穀物の安定供給を目指す

グレインズコネクト・カナダ・オペレーションズはカナダ穀倉地帯のサスカチュワン州に2基、アルバータ州に2基の計4基の内陸集荷施設(1基あたりの保管能力3万5,000t)を保有・運営しています。周辺農家から主に小麦、大麦、菜種を集荷し、4編成(1編成106両)の自社専用貨車で西海岸のバンクーバー港及び北米の顧客へ穀物を出荷しています。

また、カナダ有数の穀物業者であるパリッシュ・アンド・ハインベック社と合併で、輸出船積み施設フレザー・グレイン・ターミナルをバンクーバー近郊に設立しました。同施設は、2020年12月より貨車から本船へ直接船積みする手法で船積みを開始。カナダの内陸集荷施設から輸出港までのサプライ

和牛枝肉共励会・子牛市場情報

和牛枝肉共励会情報

表の見方：①各共励会の受賞牛の上位2位を掲載。②順位がない場合は、単価上位2位を掲載。③平均値は全体成績の平均。

血統			種	性	出荷体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	枝肉歩留	単価 (円)	格付	歩留等級		肉質等級	販売価格(円)
父	母の父	母の祖父								ロース芯面積 (cm)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	

◎令和3年12月7日(東京食肉市場) 宮城県・令和3年度第2回山南肉牛研究会枝肉共進会 (和牛去勢22頭、雌2頭 合計24頭出品)

幸紀雄	安福久	深晴	和	去勢	－	599	－	3,249	A5	115	10.0	12	1,946,151
勝早桜5	安福久	第1花国	和	去勢	－	677	－	2,942	A5	105	10.3	12	1,991,734
(平均値)					－	(569.2)	－	(2,696)		(84.3)	(9.2)	(9.8)	(1,535,704)

◎令和3年12月8日(東京食肉市場) 栃木県・第23回JAしもつけ肉牛枝肉共励会 (和牛去勢28頭、F1去勢5頭 合計33頭出品)

福之姫	安福久	百合茂	和	去勢	－	619	－	3,123	A5	92	9.3	12	1,933,137
幸紀雄	美国桜	安糸福	和	去勢	－	579	－	3,100	A5	83	9.4	11	1,794,900
(平均値)					－	(578.2)	－	(2,498)		(71.9)	(8.6)	(8.0)	(1,437,821)

◎令和3年12月9日(東京食肉市場) 青森県・令和3年度あおり倉石牛枝肉勉強会 (和牛去勢18頭、雌6頭 合計24頭出品)

百合白清2	第1花国	安福久	和	去勢	－	611	－	3,020	A5	95	11.4	11	1,845,220
愛之国	諒太郎	安福久	和	去勢	－	572	－	2,914	A5	97	10.0	11	1,666,808
(平均値)					－	(503.7)	－	(2,694)		(71.3)	(8.6)	(8.0)	(1,363,083)

◎令和3年12月9日(東京食肉市場) 栃木県・第132回JAなすの肥育牛部会和牛枝肉研究会「とちぎ和牛」 (和牛去勢19頭、雌2頭 合計21頭出品)

美津照平	百合茂	安福久	和	去勢	－	593	－	2,979	A5	93	9.0	12	1,766,547
美津照重	幸紀雄	安福久	和	去勢	－	614	－	2,881	A5	95	9.1	12	1,768,934
(平均値)					－	(540.9)	－	(2,647)		(73.5)	(8.4)	(9.3)	(1,432,686)

◎令和3年12月10日(東京食肉市場) 山形県・第27回庄内みどり農協肉牛研究会 (和牛去勢20頭、雌4頭 合計24頭出品)

福之姫	栄11	安福久	和	去勢	850	615	72.4	3,147	A5	93	10.5	12	1,935,405
幸紀雄	安福久	平茂勝	和	去勢	750	524	69.9	3,007	A5	76	9.9	12	1,575,668
(平均値)					(800.0)	(536.6)	(67.1)	(2,692)		(71.6)	(8.8)	(8.3)	(1,446,216)

◎令和3年12月10日(東京食肉市場) 栃木県・第8回JAうつのみや肥育牛部会枝肉研究会 (和牛去勢33頭、雌2頭、F1去勢5頭 合計40頭出品)

愛之国	安福久	百合茂	和	去勢	－	555	－	3,205	A5	93	8.9	12	1,778,775
美津照重	安福久	第1花国	和	去勢	－	587	－	3,117	A5	108	9.1	11	1,829,679
(平均値)					－	(554.1)	－	(2,488)		(68.1)	(8.4)	(7.9)	(1,372,018)

◎令和4年1月6日(東京食肉市場) 栃木県・第43回JAおやま肉牛枝肉研究会 (和牛去勢18頭、雌5頭 合計23頭出品)

諒太郎	安福久	平茂勝	和	去勢	－	624	－	2,773	A5	82	8.5	12	1,730,352
幸紀雄	安福久	平茂勝	和	雌	－	445	－	2,904	A5	78	8.5	11	1,292,280
(平均値)					－	(526.6)	－	(2,386)		(69.3)	(8.4)	(8.3)	(1,257,359)

◎令和4年1月7日(東京食肉市場) 宮城県・令和3年度新みやぎ農協肉牛枝肉共励会 (和牛去勢29頭、雌7頭 合計36頭出品)

勝早桜5	安福久	福之国	和	去勢	900	610	67.8	3,116	A5	113	9.6	12	1,900,760
茂福久	諒太郎	第1花国	和	去勢	850	576	67.8	3,006	A5	82	9.8	12	1,731,456
(平均値)					(849.6)	(553.3)	(65.1)	(2,579)		(80.8)	(8.6)	(10.1)	(1,431,019)

◎令和4年1月12日(東京食肉市場) 栃木県・「とちぎ和牛」令和3年度第3回JAKあみつが和牛枝肉研究会 (和牛去勢24頭出品)

勝乃幸	諒太郎	安福久	和	去勢	810	545	67.3	2,856	A5	108	8.2	12	1,556,520
美津照重	諒太郎	第1花国	和	去勢	830	545	65.7	2,760	A5	103	8.5	11	1,504,200
(平均値)					(861.3)	(561.1)	(65.2)	(2,470)		(74.5)	(8.2)	(9.4)	(1,383,594)

◎令和4年1月13日(東京食肉市場) 栃木県・JALしおのや枝肉研究会(第28回) (和牛去勢19頭、雌2頭、F1去勢9頭 合計30頭出品)

茂久桜	隆之国	美津照	和	去勢	－	559	－	2,851	A5	76	9.8	12	1,593,709
諒太郎	平茂晴	安福久	和	去勢	－	633	－	2,620	A5	104	8.2	11	1,658,460
(平均値)					－	(608.6)	－	(2,172)		(71.7)	(8.9)	(8.1)	(1,311,228)

◎令和4年1月14日(東京食肉市場) 栃木県・第133回JANAすの肥育牛部会和牛枝肉研究会「とちぎ和牛」 (和牛去勢19頭、雌1頭 合計20頭出品)

幸紀雄	安福久	平茂勝	和	去勢	－	600	－	2,707	A5	94	8.9	12	1,624,200
美津照重	安福久	百合茂	和	去勢	－	506	－	2,831	A5	96	8.2	12	1,432,486
(平均値)					－	(563.4)	－	(2,491)		(79.5)	(8.9)	(10.3)	(1,404,352)

◎令和4年1月18日(東京食肉市場) 栃木県・第9回JAうつのみや肥育牛部会枝肉研究会 (和牛去勢15頭、雌1頭、F1去勢8頭 合計24頭出品)

芳之国	安福久	平茂勝	和	去勢	－	566	－	2,807	A5	85	8.2	12	1,588,762
勝乃幸	美津照重	第1花国	和	去勢	－	540	－	2,500	A5	79	8.9	11	1,350,000
(平均値)					－	(555.8)	－	(2,071)		(66.5)	(8.0)	(7.5)	(1,139,458)

◎令和4年1月19日(東京食肉市場) 宮城県・「仙台牛」担い手の会肉牛枝肉研究会 (和牛去勢18頭、雌6頭 合計24頭出品)

幸紀雄	安福久	第1花国	和	去勢	835	577	69.1	3,039	A5	95	10.3	12	1,753,503
勝洋	幸紀雄	安福久	和	去勢	830	576	69.4	2,864	A5	84	10.3	12	1,649,664
(平均値)					(820.8)	(540.2)	(65.7)	(2,488)		(76.8)	(8.3)	(9.7)	(1,352,888)

JA全農が提供する畜産総合情報サイト「JACCネット」https://jaccnet.zennoh.or.jp/

血統			種	性	出荷体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	枝肉歩留	単価 (円)	格付	歩留等級		肉質等級	販売価格(円)
父	母の父	母の祖父								ロース芯面積 (cm)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	

◎令和4年1月19日(東京食肉市場) 栃木県・「とちぎ和牛」令和3年度栃木県・県南地区JA和牛枝肉共励会 (和牛去勢21頭、雌2頭 合計23頭出品)

幸紀雄	安福久	百合茂	和	去勢	－	606	－	2,709	A5	76	9.7	12	1,641,654
福之姫	幸紀雄	安福久	和	去勢	－	582	－	2,700	A5	84	9.8	12	1,571,400
(平均値)					－	(534.9)	－	(2,344)		(65.3)	(8.2)	(8.6)	(1,250,901)

◎令和4年1月20日(東京食肉市場) 岩手県・第40回江刺牛枝肉共励会 (和牛去勢12頭、雌14頭 合計26頭出品)

福之姫	安福久	－	和	雌	705	464	65.8	2,845	A5	73	9.5	12	1,320,080
礼美茂	安茂晴	－	和	雌	597	401	67.2	2,944	A5	68	7.7	10	1,180,544
(平均値)					(763.3)	(505.2)	(66.3)	(2,406)		(76.8)	(8.7)	(9.3)	(1,213,411)

◎令和4年1月20日(東京食肉市場) 福島県・令和3年度JA東西しらかわ冬季枝肉研究会 (和牛去勢11頭、雌13頭 合計24頭出品)

愛之国	諒太郎	美津照重	和	雌	－	438	－	2,883	A5	76	7.4	12	1,262,754
美津照重	芳之国	安福久	和	去勢	－	484	－	2,593	A5	71	7.6	11	1,255,012
(平均値)					－	(482.7)	－	(2,283)		(65.5)	(7.8)	(7.7)	(1,103,207)

◎令和4年1月21日(東京食肉市場) 全農・令和3年度第5回和牛甲子園－枝肉評価部門(全国農業高等学校和牛枝肉共励会)－ (和牛去勢33頭、雌17頭 合計50頭出品)

秀幸福	安福久	勝忠平	和	去勢	854	601	70.4	4,305	A5	100	11.7	12	2,587,305
花清光	福平国	光平福	和	雌	681	480	70.5	3,604	A5	79	9.3	12	1,729,920
(平均値)					(779.5)	(528.8)	(67.7)	(2,713)		(70.4)	(8.6)	(9.4)	(1,437,223)

◎令和4年1月25日(東京食肉市場) 岩手県・第32回「いわて牛」枝肉共励会 (和牛去勢38頭、雌22頭 合計60頭出品)

美津照重	美国桜	－	和	去勢	760	503	66.2	5,003	A5	111	8.6	12	2,516,509
福之姫	安福久	－	和	去勢	900	622	69.1	3,104	A5	118	10.7	12	1,930,688
(平均値)					(809.4)	(535.4)	(66.1)	(2,553)		(83.4)	(8.9)	(10.3)	(1,364,374)

◎令和4年1月27日(東京食肉市場) 福島県・第22回「福島牛」牛友会枝肉研究会 (和牛去勢26頭、雌8頭 合計34頭出品)

茂晴花	安福久	金幸	和	去勢	－	594	－	2,831	A5	100	10.7	12	1,681,614
幸紀雄	安福久	金幸	和	去勢	－	473	－	2,663	A5	83	9.0	12	1,259,599
(平均値)					－	(546.6)	－	(2,267)		(76.5)	(9.0)	(9.1)	(1,239,747)

◎令和4年1月27日(東京食肉市場) 栃木県・第10回JAE東日本くみあい飼料㈱「とちぎ和牛」枝肉研究会 (和牛去勢42頭出品)

福之姫	安福久	平茂勝	和	去勢	－	650	－	4,002	A5	111	9.6	12	2,601,300
百合白清2	安福久	百合茂	和	去勢	－	681	－	2,953	A5	101	10.0	12	2,010,993
(平均値)					－	(574.4)	－	(2,407)		(78.0)	(8.5)	(9.4)	(1,390,015)

子牛市場情報

和牛素牛全国主要市場成績 令和4年1月度 ― 雌・去勢計の高値上位10市場（1月31日時点）―

都道府県	市 場		性	上場頭数	平均価格 円/頭(税込)	体重 kg	単価 円/kg	前回平均 円/頭(税込)	前回比 %
黒毛和種	全国計		雌	11,987	680,029	280	2,430	714,268	95
			去	16,054	793,285	303	2,621	807,748	98
			計	28,041	744,870	293	2,543	768,179	97
1 岐 阜	飛 騨		雌	168	738,886	243	3,046	742,507	100
			去	248	926,471	269	3,439	827,011	112
			計	416	850,715	259	3,290	795,728	107
2 兵 庫	但 馬		雌	113	887,505	226	3,923	976,169	91
			去	174	816,579	246	3,317	905,970	90
			計	287	844,505	238	3,543	933,282	90
3 鳥 取	中 央		雌	134	891,960	276	3,227	984,137	91
			去	193	788,147	294	2,676	733,363	107
			計	327	830,688	287	2,894	852,973	97
4 兵 庫	淡 路		雌	144	774,033	235	3,287	867,742	89
			去	191	818,555	257	3,180	869,862	94
			計	335	799,418	248	3,223	869,071	92
5 鹿児島	薩 摩		雌	208	748,813	282	2,658	754,727	99
			去	269	825,932	312	2,648	806,426	102
			計	477	792,304	299	2,652	784,368	101
6 北海道	十 勝		雌	777	698,022	312	2,236	703,794	99
			去	981	844,479	326	2,588	827,109	102
			計	1,758	780,810	320	2,438	773,524	101
7 長 崎	五 島		雌	248	685,719	263	2,606	689,804	99
			去	321	847,459	286	2,962	804,946	105
			計	569	777,125	276	2,814	756,743	103
8 栃 木	矢 板		雌	314	725,474	287	2,524	773,152	94
			去	410	816,568	319	2,552	839,949	97
			計	724	775,854	305	2,538	812,276	96
9 北海道	南 北 海 道		雌	531	690,783	307	2,253	680,604	101
			去	823	826,980	327	2,532	816,132	101
			計	1,354	774,054	319	2,428	763,912	101
10 宮 崎	児 湯		雌	375	742,843	284	2,596	729,775	102
			去	403	802,645	298	2,692	828,847	97
			計	778	773,820	291	2,648	781,244	99



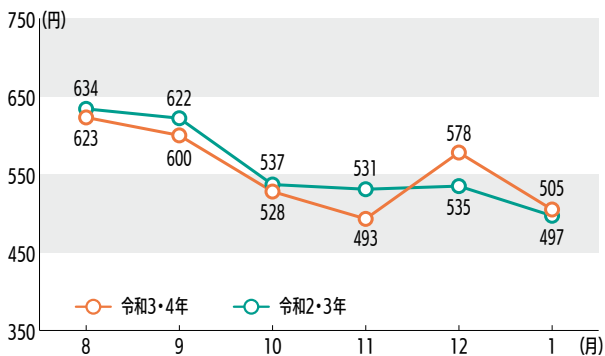
豚肉

令和3年12月の全国の肉豚出荷頭数は1,510千頭(前年比99.4%)となった。地域別出荷頭数を前年比で見ると、北海道101.8%、東北100.2%、関東97.9%、北陸甲信越100.4%、東海103.5%、近畿105.5%、中四国98.9%、九州・沖縄98.7%だった。

令和4年1月の全国と畜頭数の速報値は1,351千頭(1月31日まで集計)で、前年比95.3%となっている。稼働日数は昨年と同じだったが、1日あたりの平均と畜頭数は71,079頭(前年実績:74,620頭/日)と前年に比べて減少した。

12月の輸入通関実績は豚肉全体で74.5千t(前年比104.2%、前月比94.9%)となった。内訳は、チルドが30.6千t(同83.1%、同89.7%)、フローズンは43.9千t(同126.7%、同99.0%)だった。チルドは現地価格の高騰の影響

豚枝肉「上」の卸売価格(東京食肉市場)



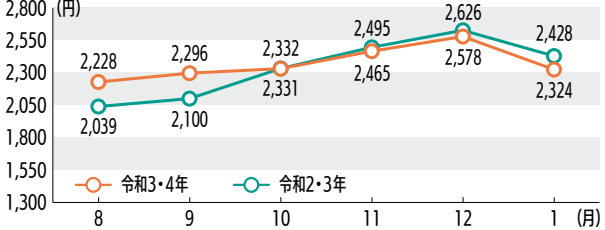
牛肉

令和3年12月の成牛と畜頭数は、97.4千頭(前年比100.2%)とほぼ前年並みだった。内訳を見ると、和牛47.4千頭(前年比100.2%)がほぼ前年並みだった一方、交雑牛21.3千頭(同99.7%)と乳牛去勢12.4千頭(同92.8%)は前年を下回った。

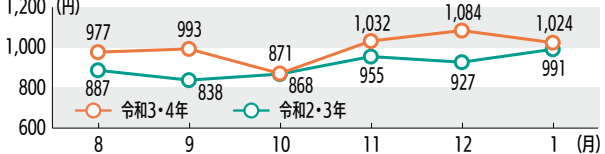
12月の輸入通関実績によると、現地価格の高騰により牛肉輸入量は全体で45.7千t(前年比92.8%、前月比107.2%)と前年をかなり大きく下回った。内訳は、チルドが20.8千t(前年比88.0%、前月比126.5%)と前年をかなり大きく下回り、フローズンも24.9千t(前年比97.2%、前月比95.0%)とかなりの程度下回った。

総務省発表の11月度の家計調査報告によると、全国2人以上

和牛枝肉「去勢A-4」の卸売価格(東京食肉市場)



乳用枝肉「去勢B-2」の卸売価格(東京食肉市場)



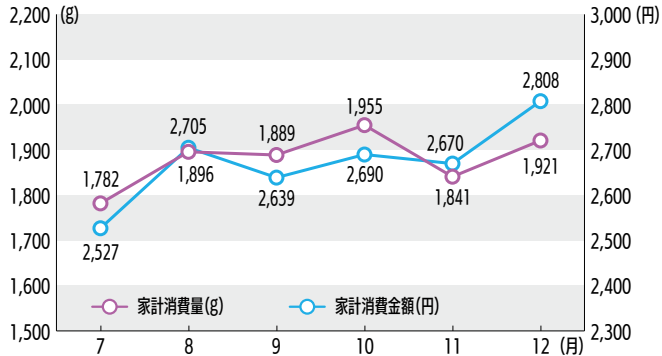
響で前年を下回ったが、フローズンは中国の買い付けが弱まった欧州産が増加し、前年を上回った。

総務省発表の11月の家計調査報告によると、全国2人以上の1世帯あたり豚肉購入数量は1,841g(前年比95.9%)、支出金額が2,670円(同97.2%)となり、ともに前年を下回った。(※前々年比:購入量103.2%、金額106.1%)

1月の東京食肉市場枝肉相場は速報値(1月31日時点)で505円/kg(前年比101.5%)と前年を上回り、2カ月連続で500円を超える相場となった。中旬には外食需要の減少で弱含みな下落傾向の相場展開となったが、下旬は全国の出荷頭数が6万頭台/日に減少する中で強含みな推移となった。

【令和4年3月の相場予想】※東京市場 上物・税込491円

豚枝肉の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



の1世帯あたり牛肉購入量は491g(前年比87.2%)、支出金額は1,675円(同91.2%)となり、ともに前年を下回った。

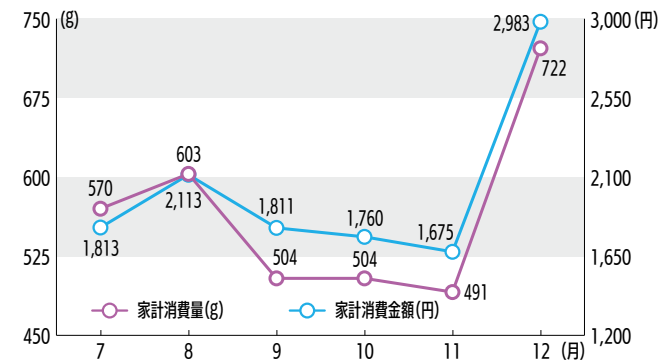
令和4年1月の東京市場枝肉卸売価格(速報値1月31日時点)は、和牛去勢A5が2,593円(前年比97.3%)、和牛去勢A4が2,324円(同95.7%)、和牛去勢A3が2,142円(同94.8%)、交雑牛B3が1,462円(同92.8%)、乳牛去勢B2が1,024円(同103.3%)だった。

2月の国内出荷予測頭数を品種別に見ると、和牛と交雑牛が前年を上回る一方、乳用牛は前年を下回る見通し。堅調な輸出動向や政府の補助事業の影響で相場は一定の下支えが期待されるが、和牛・交雑牛の出荷頭数の回復やまん延防止等重点措置の継続で相場は総じて弱含みな展開が予測される。

【令和4年3月の相場予想】※東京市場 税込

◎和牛去勢A4:2,280円 ◎交雑去勢B3:1,420円 ◎乳牛去勢B2:1,050円

牛肉の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)

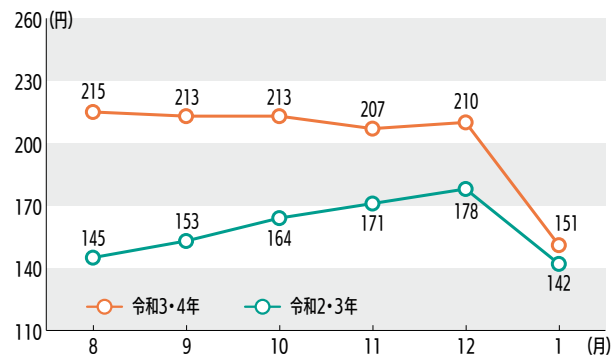


鶏卵

令和3年12月の全国の餌付け羽数は9,025千羽(前年比111.3%)。東西別の前年比では、東日本が102.7%、西日本が123.2%と前年を上回った。特に北海道で179.4%、近畿で163.8%、四国で201.4%と大きく伸長した。令和3年産の全国累計は104,491千羽、前年比100.9%。特に9~12月累計の前年比は107.9%と伸長が続き、結果として令和2年と同等の餌付け推移となった。

12月の鶏卵の1人あたりの家計消費量は946g(前年比93.9%)。令和元年度の同月に比べると、103.2%となっている。年末の行楽需要期でもあり、令和2年よりも巣ごもり需要は落ち着いた形となった。

鶏卵取引価格・全農たまごMサイズ基準値(東京)

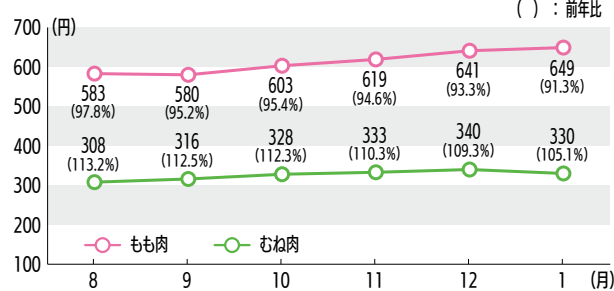


鶏肉

生産・処理動向調査によると、令和3年12月の推計実績は処理羽数67,662千羽(前年比101.8%)・処理重量207.2千t(同102.4%)となり、前月時点の計画値と比較すると処理羽数は1.3%、処理重量は3.2%上方修正となった。特に関西・九州エリアは顕著に処理重量が計画を上回っており、生育状況は順調であることが数値に反映された。

財務省が1月28日に発表した貿易統計によると、12月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月の2,899t増の60,671tで、前年を42.1%上回った。国別では前月よりタイが1,604t増、ブラジルは1,503t増となっており、国内在庫の減少や加工向けの需要が増加したと思われる。総務省統計局発表の家計調査報告によると、12月の鶏肉は数量1,695g(前年比92.2%)、金額1,702円(同96.5%)と、ともに前年を下回った。しかし、単価については100.4円/100g(同+4.5円)で前年を上回った。調理

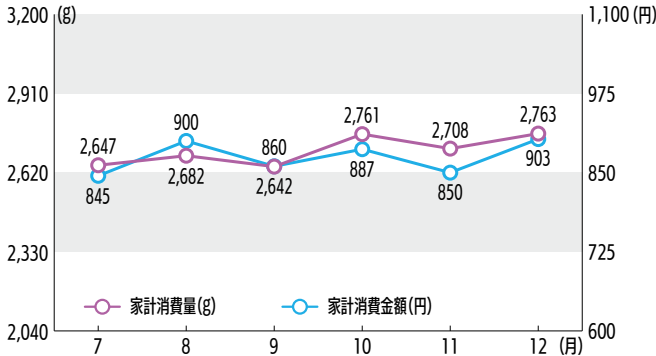
ブロイラー(正肉)市況の推移



令和4年1月の東京相場の月間平均は、Mサイズ151円(前年比+9円、前月比-59円)だった。需要面では、量販筋は初市相場で相場連動商品の発注増が見られた。また、新型コロナウイルスの感染者が急増した中旬以降では、昨年のような巣ごもり需要による引き合いは見られず定番通りの荷動きとなった。一方、業務・外食筋では感染拡大の影響から荷動きは鈍くなっており、加工筋も在庫水準が高く、集荷意欲は低かった。

今後、鶏卵の供給面は引き続き生産回復傾向だが、需要面は新型コロナの感染拡大から、業務・外食筋の需要増の期待感は薄い。引き続き、感染拡大や鳥インフルエンザの発生による供給量減少の動きを注視していく必要がある。

鶏卵の家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



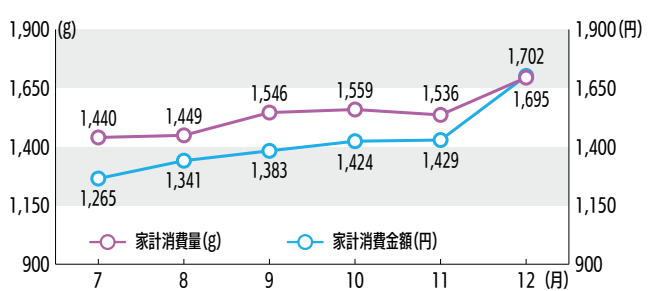
食品費、外食費がともに前年より増加しており、内食から、中食・外食へ消費が一部シフトしたと考える。

推計期末在庫は国産35.5千t(前年比132.2%・前月差+1.9千t)、輸入品114.4千t(同92.1%・同-0.3千t)と、合計で149.9千t(同99.2%・同+1.7千t)となった。

1月の月平均相場は、もも肉649円/kg(前月差+8円)、むね肉330円/kg(同-10円)、正肉合計で979円/2kgと前月差で2円下回り、前年差では46円下回った。もも肉は月初658円、月末は643円までの15円の下がり幅となった。昨年は月初713円、月末707円の6円の下がり幅であった。鶏肉ブーム等により、一定水準の需要があるものの、供給量が多く、昨年ほど需給が締まらなかったため相場の下がり幅は昨年を上回ったと考えられる。むね肉の相場は年末に凍結した在庫の消化や在庫積み増しを回避する動きから下げ基調であったが、競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いこともあり、前月から10円の下げにとどまった。

【令和4年3月の相場予想】 ◎もも肉:630円 ◎むね肉:310円

ブロイラーの家計消費量と消費金額(全国1世帯あたり)



資材紹介

自然素材で畜舎の環境を改善します!

恵爽パワー



原料は高い調湿性を持った
北海道産珪藻土

5つの特徴

1. 使い方は簡単! 畜舎の床面、敷料上に散布するだけ!
2. 珪藻土由来の高い調湿性を備え、吸湿・放湿効果で家畜のストレスを緩和!
3. 湿気とともに臭気成分も吸着し、畜舎における嫌なにおいを改善!
4. 鶏舎向けの「恵爽パワーW」はワクモ対策に効果があり、ワクモ被害を軽減!
5. 自然素材のため環境に優しく、家畜・人への健康被害もありません。

品名	規格
【牛舎・豚舎用】恵爽パワー	袋物13kg、フレコンバック650kg
【鶏舎用】恵爽パワーW	袋物13kg、フレコンバック650kg

【お問合せ先】
全農畜産サービス株式会社
TEL:03-5245-4871 <https://www.zcss.co.jp/>



表紙写真
吉岐市農業協同組合肥育部会と、関係者の皆さん、
塩澤農場と関係者の皆さん、第39回「全農酪農経営体験発表会」の誌面より

編集委員
三浦康治／中尾山隆司／剣持和幸／澤 明／佐藤由治／佐藤哲誠／
藤田和政／大畑博義／江崎尚二／泉瑞枝／柴田拓起／児玉博士／
笹渡翔／岩橋かをり／出雲智子／高橋光

発行元
JA全農畜産生産部推進・商品開発課
東京都千代田区大手町1-3-1
TEL03-6271-8236
FAX03-5218-2526

これからの季節に 備えて



東日本大震災(2011年3月11日)から11年目を迎えます。
改めて地震への備えのご確認をお願いします。

- ①送風ファンや照明灯などの各種機材が落下しないよう、天井・壁等にしっかり固定されているか確認する。
- ②停電に備えて、定期的に発電機の点検をしておく。
- ③消火設備を設置し、正常に作動するよう定期的に点検する。
- ④飼料・燃料は少なくとも1週間分以上必要在庫量を確保する。
- ⑤懐中電灯など非常用の照明器具を、暗闇の中でも取り出しやすい場所に保管しておく。
- ⑥人や家畜の避難場所を確認しておく。
- ⑦農協やくみあい飼料への連絡手段を確認しておく。

編集後記



取材当日は雲一つない快晴!!
年末のお忙しい時期にもかかわらず、
早く取材に応じていただきましてありがとうございました。
今年も毎日牛乳飲んで、国産のお肉たくさん食べるぞ〜!
2022年も「ちくさんクラブ21」をよろしく願いいたします。
(T)

読者の広場

冷たい風の中にも、少しずつ春の気配を感じるようになってまいりました。花の便りが届くのが待ち遠しいですね。
今回は皆さんが取り組んでいる寒さ対策と、2022年に新たに始めたいことについてお聞きしました。

「読者からひと言」

- 「SDGsとアニマルウェルフェアについて知りたい」
(鳥根県・鶏 福田 竜哉さん)
- 「飼料の価格情勢なども取り上げていただきたい」
(宮城県・和牛 Kさん)
- 「寒い季節の牛舎の防疫について知りたい。冬は寒く、-20℃の日も多々あります。消毒液がすぐ凍って使いづらいです」
(岐阜県・繁殖和牛 栄 由佳理さん)

※お寄せいただいたご意見・ご要望につきましては、誌面制作の参考とさせていただきます。
「読者の広場」には締め切り日までにいただいた分を掲載しています。

Q. 冬場の寒さ対策で行っていることについて教えてください。

- 雪の被害は少ないのですが、11~12月にもみからをストックしています。のこずと併用し、お腹を冷やさないようにしています。あとは、100均のネックウォーマーを子牛につけています。
(佐賀県・繁殖牛 ミケネコさん)
- 各室内の温度、湿度が安定するよう定期的に調整。特に、分娩舎、離乳舎は気をつけています。
(茨城県・豚 匿名)
- 子牛にカーボンヒーターを使っている。子牛の事故がなくなった。
(岩手県・和牛繁殖 匿名)

Q. 2022年に新たに始めたいことはありますか。

- パソコン簿記と青色申告は10年以上続けていますが、家計簿が3日以上続きません。今年こそ家計簿を1年間続けたいと思います。
(岡山県・和牛 ひめゆりまさん)
- YouTube動画を作りたい。
(群馬県・繁殖和牛 りらまるさん)
- 経営を開始して3年、今年は黒字化するぞ!!
(兵庫県・和牛繁殖 円丁 一良さん)

見てみて! うちの農場

vol.24

— 高等学校編 —



畜産部ウシ班の生徒たち

群馬県立利根実業高等学校

赤城高原が広がる昭和村の赤城農場で畜産実習に取り組んでいます。和牛の繁殖と肥育の一貫経営で、繁殖牛・育成牛・肥育牛を約50頭飼育しています。JA利根沼田の方からのアドバイスに加え、「畜産物流通学習プロジェクト」の活動では、出荷した牛の枝肉勉強会、セリの見学、地元での販売会をすることで、飼育技術向上や牛肉流通の学習もしています。第5回和牛甲子園に去勢牛2頭を出品しました。高いレベルの大会に向けて畜産部ウシ班の生徒は頑張っています。

農場で働くご家族、従業員の方々などを写真とともに紹介します。写真には簡単な説明を書き添えていただき、お気軽に編集部までご送付ください。なお、写真の返却は致しかねます。あらかじめご了承ください。宛先は「〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JA全農畜産生産部推進・商品開発課/ちくさんクラブ21編集部」もしくは、eメール「zz_zk_chikusan_club@zennoh.or.jp」まで。



牛の体重を測定

3名様

JA全農ながさきより
『ゆずポン酢・ゆずの香・
吉岐産いちご梅のジャム』
(×各1 詰め合わせセット)



プレゼント

本誌に対するご意見や、読者アンケートにお答えいただいた方の中から、抽選でJAタウンに出品されている各地の名産品等をプレゼントします。申し込みはとじ込みハガキ・FAX用紙をご利用ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

締め切り: 2022年3月18日到着分まで

ちくさんクラブ21及びハガキ・FAX・メール、アンケートの個人情報保護法対応
ご提供いただいた個人情報は①誌面企画への反映、②質問に対する回答発送、③意見に対する確認作業、④プレゼント発送に利用いたします。また、この情報はJA全農からの情報提供を目的として利用させていただくこともあります。個人情報はJA全農個人情報保護方針に基づき厳重に管理いたします。詳しくは「JA全農ホームページ」にあります個人情報に関するご案内をご覧ください。<https://www.zennoh.or.jp>

- ▶梅雨の雨対策について教えてください。
- ▶一度行ってみたいところは? またそれはなぜですか?

令和4年2月発行(隔月発行)※本誌の無断転載を禁じます